Form No. 3437-313 Rev A

TORO®

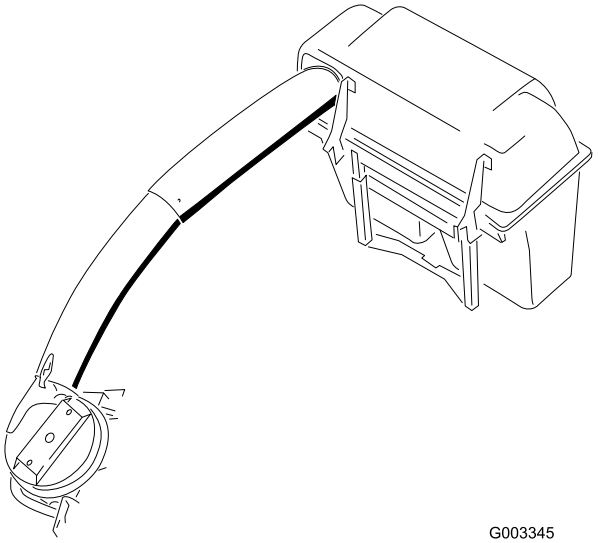
Count on it.

オペレーターズマニュアル

E-Z Vac™ 標準バガー

ゼロターン乗用モア用

モデル番号 78481—シリアル番号 400000000 以上



G003345

製品の登録は www.Toro.com.
この文書は翻訳です。 (JA)

3437-313 A

⚠ 警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告
米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとされております。

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

製品の安全や取り扱い講習、アクセサリなどに関する情報、代理店についての情報の入手、お買い上げ製品の登録などをネットで行っていただくことができますwww.Toro.com

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1と図 2と図 3 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

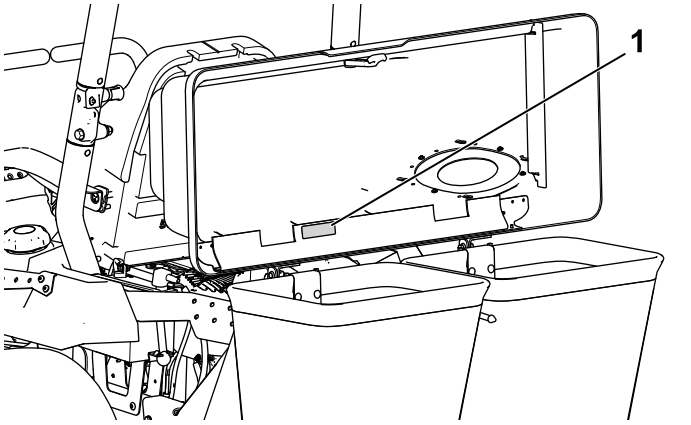


図 1

1. バガーの銘板取り付け位置

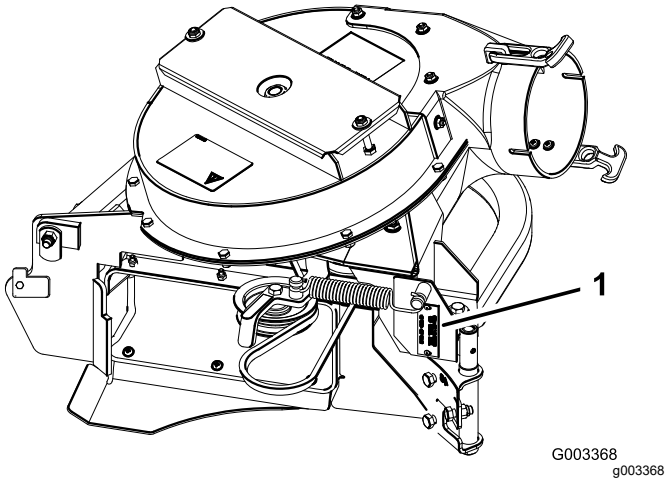


図 2

1. ブロアの銘板取り付け位置

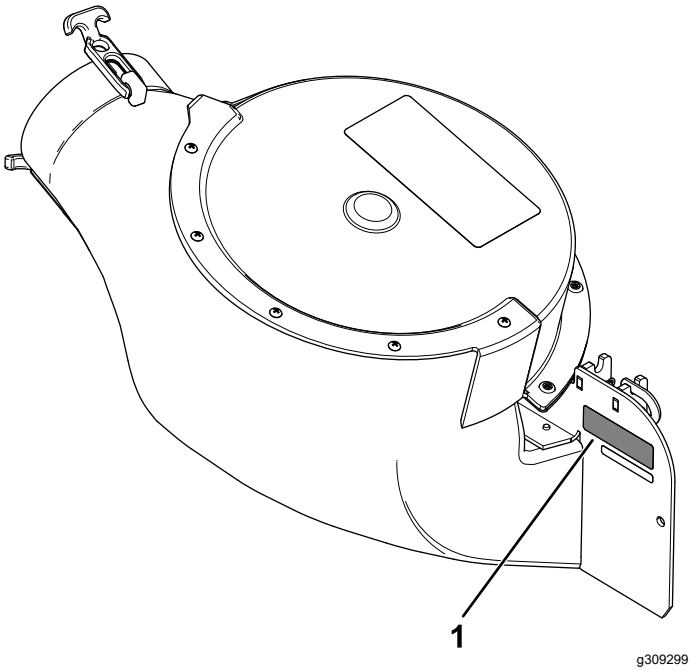


図 3

1. ブロアの銘板取り付け位置

© 2020—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

連絡先 www.Toro.com.
Printed in the USA
禁無断転載

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 4を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



g000502

図 4
危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

目次

安全について 4
牽引時の安全事項 4
安全ラベルと指示ラベル 5
組み立て 7
1 マシンの準備を行う 9
2 ROPS ピンを取りつける 9
3 ウェイトキットを取り付ける 10
4 バガーサポートを取りつける 装着車の場合 11
5 トランスミッションサポートを取りつける 12
6 クロスブレースを取り付ける 12
7 ピボットアセンブリを取り付ける 13
8 押さえ棒を取り付ける 14
9 フードを取り付ける 14
10 フードを取り付ける 14
11 バッグを取り付ける 15
12 ヒッチカバーを取り付ける 16
13 既存のベルトカバー、ブラケット、排出シュートを取り外す 16
14 ブロアプーリアセンブリとベルトカバーブラケットを取り付ける 17
15 バッフルを取り付ける 19
16 ブロアアセンブリを取り付ける 20
17 ブロアベルト、スプリング、ブロアベルトカバーを取り付ける 23
18 排出チューブを取り付ける 25
19 駐車ブレーキの調整 27
20 タイヤ空気圧を点検する 27
運転操作 28
集草バッグにたまった刈かすを捨てる 29
バガーが詰まった場合の対処 29
バガーの取り外し 29
移動走行を行うとき 30
ヒント 30
保守 31
推奨される定期整備作業 31
フードスクリーンの清掃 31
バガーアタッチメントの点検 31
バガーとバッグの清掃 32
ブロアベルトの点検 32
ブロアベルトの交換 32
アイドラアームにグリスを注入するモデル 78483-78488 34
バガーの点検 34
刈り込みブレードの点検 34
刈り込みブレードの選択 34
デフレクタの交換 34
保管 35
故障探究 36

安全について

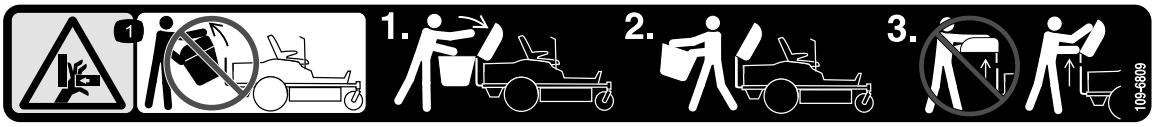
- 各部の操作方法や本機の正しい使用方法、警告表示などに十分慣れ、安全に運転できるようになりましょう。
- 集草袋などのアタッチメントを使用する際には、特別の注意が必要です。アタッチメントによってマシンの運転特性や安定性が変わる場合がありますからご注意ください。
- 斜面での安定性を確保するために、メーカーの指示にしたがってウェイトやカウンタウェイトを必ず正しく搭載してください。
- 急斜面ではバガーを使用しないこと。集草装置が重くなるとマシンを制御できなくなったり転倒したりする危険があります。
- 斜面では必ず減速し安全に十分注意して運転してください。また斜面では、必ず決められた走行方向や作業方向を守ってください。ターフの状態は、マシンの安定性に大きな影響を与えます。段差の近くでの運転には特に注意してください。
- 斜面では動作も運転操作もゆっくりと行うことが原則です。急旋回したり不意に速度や方向を変えたりしないでください。
- 集草装置をとりつけることによって視界が制限される場合があります。バックするときには十二分の注意が必要です。
- トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- 絶対に、デフレクタを上げたまま、取り外したまま、あるいは改造したりして刈り込みをしないでください集草装置を使用するときは別。
- 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたままで調整を行うのは避けてください。
- どんな場合であれバッグを空にする時や詰まりを除去する時も含みます、運転位置を離れる時には、平らな場所に停車し、駆動装置を解除し、エンジンを停止させてください。
- 集草装置を外して刈り込みを行う場合には、必ず、以前に取り外したデフレクタやガードなどを元通りに取り付けてから運転してください。集草装置もデフレクタも取り付けない状態の運転は絶対にしないでください。
- 集草装置の中に、長期間にわたって刈かすを放置しないでください。
- 集草装置の各部が消耗や劣化してくると、内部の可動部が露出したり、内部に吸い込まれたものが飛び出してくる危険があります。各部を頻繁に点検し、必要に応じてメーカーが推奨する交換部品と交換するようにしてください。

牽引時の安全事項

- 牽引される側の機械は、ヒッチポイントでのみ連結してください。
- アタッチメントを取り付けて運転したり牽引したりする場合には、アタッチメントのメーカーが決めたウェイトの搭載や重量制限を守ってください。
- 牽引される側の機械には絶対に子供などを乗せないでください。
- 斜面などでは、牽引される側の機械の重量によって運転制御ができなくなる危険があります。牽引重量を減らし、走行速度を落としてください。
- 停止までに必要な距離は、牽引物の重さに比例して長くなります。牽引は低速で行い、停止距離を十分にとってください。
- 旋回する時は、アタッチメントが機体に当たらないように大きく旋回してください。
- 牽引車両よりも重いものを牽引しないでください。

安全ラベルと指示ラベル

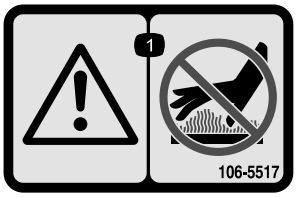
危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



decal109-6809

109-6809

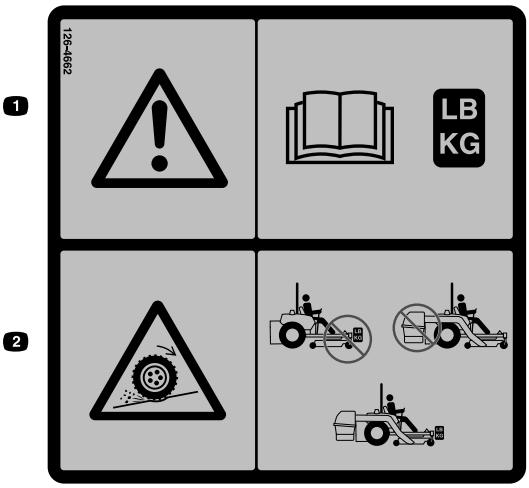
1. 手を押しつぶされる危険バガー全体を機体から取り外さないこと。ステップ1バガー上部を開く。ステップ2バガーからバッグを取り外す。ステップ3バガー上部を閉めたままで外さないこと上部を開いてから取り外すこと。



decal106-5517

106-5517

1. 警告高温部に触れないこと。



decal126-4662

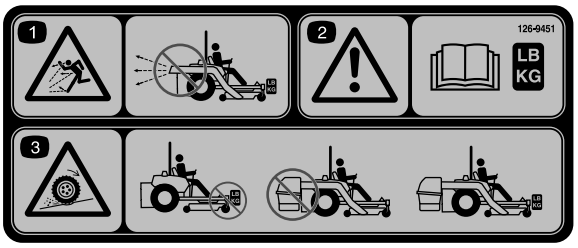
126-4662

1. 警告カウンタバランスの個数については、*オペレーターズマニュアル* を参照。
2. 走行不能、ハンドル操作不能、機体が不安定などの危険Ez Vac を取り付けていないのに、Ez Vac 用のカウンタバランスを外さないで運転すると運転が不安定になる危険が高い。Ez Vac を取り付けているのに、Ez Vac 用のカウンタバランスを取り付けないで運転すると運転が不安定になる危険が高い。Ez Vac を取り付けたらウェイトを取り付ける。Ez Vac を外したらウェイトも外すこと。



decal133-8061

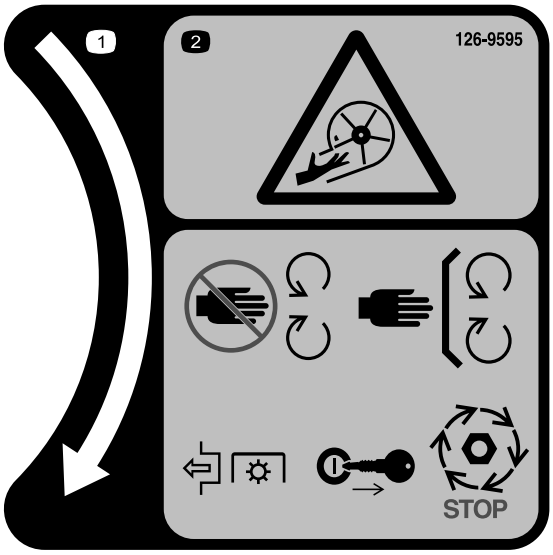
133-8061



decal126-9451

126-9451

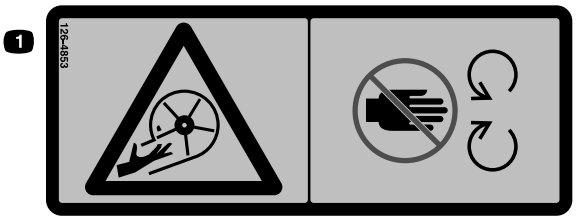
1. 異物が飛び出す危険ブロアを作動させる前に必ず集草装置全体を確実に取り付け、ラッチで固定すること。
2. 警告カウンタバランスの取り付けについては*オペレーターズマニュアル*を参照のこと。
3. 走行不能、ハンドル操作不能、機体が不安定などの危険Ez Vac を取り付けていないのに、Ez Vac 用のカウンタバランスを外さないで運転すると運転が不安定になる危険が高い。Ez Vac を取り付けているのに、Ez Vac 用のカウンタバランスを取り付けないで運転すると運転が不安定になる危険が高い。Ez Vac を取り付けたらウェイトを取り付ける。Ez Vac を外したらウェイトも外すこと。



decal126-9595

126-9595

1. 回転インジケータ
2. インペラや回転刃による危険可動部に手足を近づけないこと。すべての安全装置を所定の場所に取り付けて使用すること。回転インジケータが停止するまでは、ブロアに手を入れないこと。PTO を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取り、可動部が完全に停止したのを確認する。



decal126-4853

126-4853

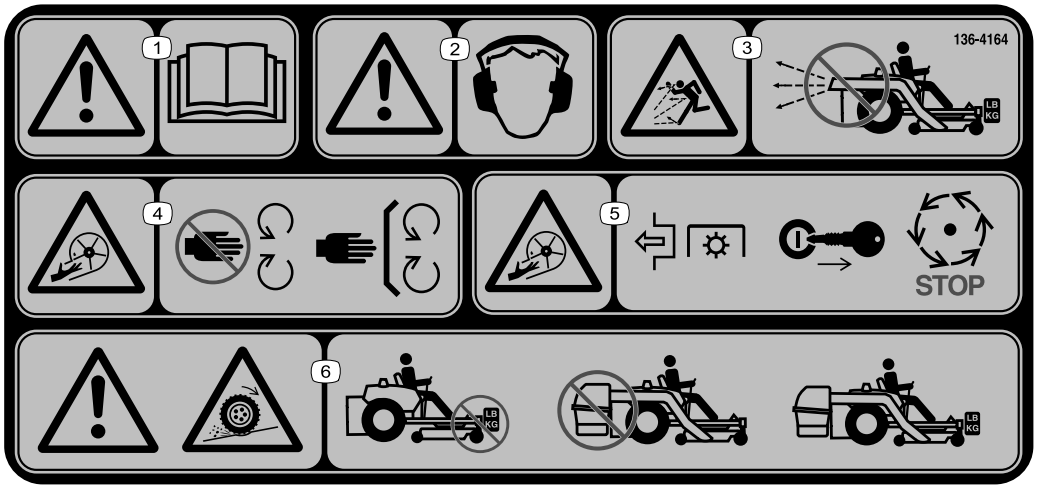
1. インペラや回転刃による危険可動部に手足を近づけないこと。すべての安全装置を所定の場所に取り付けて使用すること。回転インジケータが停止するまでは、ブロアに手を入れないこと。



decal126-4659

126-4659

1. 警告プーリは高温冷えるのを待つこと。



decal136-4164

136-4164

1. 警告 *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. 警告 必ず聴覚保護具を着用すること。
3. 異物が飛び出す危険ブロア全体を確実に取り付け、ラッチを掛けて使用すること。
4. インペラによる切傷や手足の切断の危険可動部に近づかないこと 使用時にはすべての安全カバー類を正しく取り付けておくこと。
5. インペラによる手足や指の切断の危険PTOを解除し、キーを抜き取り、各部が完全に停止するまで待つこと。
6. 警告 走行できなくなる危険。カウンタバランスウェイトのみで運転しないこと。E-Z Vac のみを取り付けて状態で運転しないこと。必ず E-Z Vac とカウンタバランスウェイトの両方を取り付けて運転すること。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	–	マシンの準備を行います。
2	ROPS ピンアセンブリ ボルト#10 x ¾" ワッシャ#10	2 2 2	ROPS ピンを取りつけます。
3	重量 チャネルプレート プレート タブ付きプレート ボルト⅜ x 2½" ナット⅜" 平ウェイト	2 2 2 2 4 4 2	ウェイトを取り付けます。
4	左側バガーサポート 右側バガーサポート ボルト5/16 x 3¼" フランジナット5/16" ワッシャ	1 1 4 4 4	バガーサポートを取りつけます。
5	トランスミッションサポート	1	トランスミッションサポートを取り付けます。
6	クロスブレース 六角ヘッドボルト⅝ x 7/16" フランジナット5/16"	1 4 4	クロスブレースを取り付けます。
7	ピボットアセンブリ ヘアピンコッター	1 1	ピボットアセンブリを取り付けます。
8	押さえ棒 ヘアピンコッター	1 1	押さえ棒を取り付けます。
9	フード 芝草スクリーン ヘアピンコッター	1 1 2	フードを取り付けます。
10	フードアセンブリ	1	フードを取り付ける。
11	バッグ	2	バッグを取り付けます。
12	ヒッチカバー	1	レンズカバーを取り付けます。
13	必要なパーツはありません。	–	既存のベルトカバー、ブラケット、排出シュートを取り外します。

手順	内容	数量	用途
14	ブロアプーリアセンブリ ベルトカバーブラケット スピードナット キャリッジボルト¼ x ¾" ロックナット¼" ロックナット⅜" ブロアプーリ ロックナット¾" ワッシャ プーリマウント	1 1 1 2 2 3 1 1 1 1	ブロアプーリアセンブリを取り付けます。
15	バッフル キャリッジボルト5/16 x ⅞" フランジナット5/16" キャリッジボルト⅜ x ⅞" フランジナット⅜"	1 1 1 2 2	バッフルを取り付けます。
16	ブロアアセンブリ ブロアベルト ピボットピン ロールピン3/16 x ⅞"	1 1 1 1	ブロアアセンブリを取り付けます。
17	ブロアベルトカバー カバーのノブ	1 1	バガーベルト、スプリング、ブロアベルトカバーを取り付けます。
18	上チューブ 下側チューブ ボルト#10 x ¾" ロックナット#10 ワッシャ7/32"	1 1 3 3 3	排出チューブを取り付けます。
19	必要なパーツはありません。	–	駐車ブレーキを調整する。
20	必要なパーツはありません。	–	タイヤ空気圧を点検する。

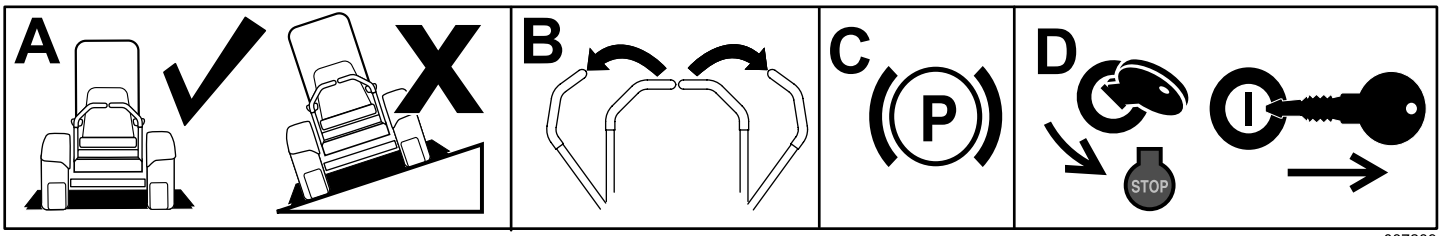
1

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 平らな場所に駐車する。
2. 走行コントロールレバーをニュートラル固定位置以外の位置に動かす。
3. 駐車ブレーキを掛ける。
4. エンジンを止め、キーを抜き取る。



g037289

g037289

図 5

2

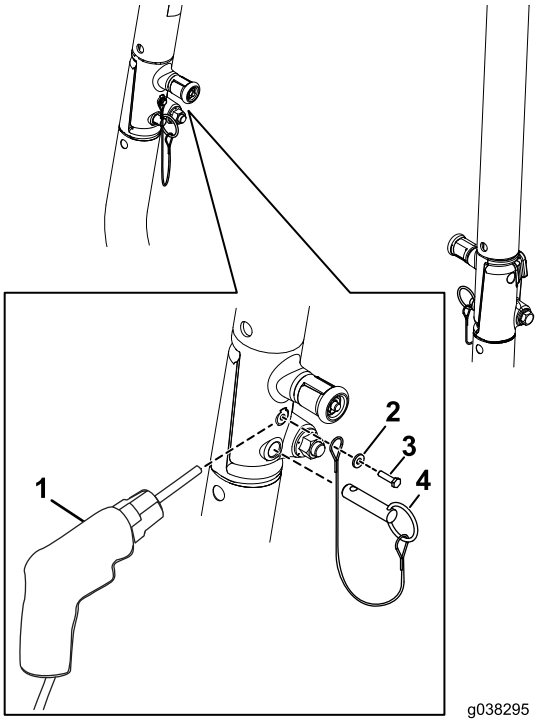
ROPS ピンを取りつける

この作業に必要なパーツ

2	ROPS ピンアセンブリ
2	ボルト#10 x ¾"
2	ワッシャ#10

手順

1. #180.170"のドリルで、ROPSにランヤード用の穴を開ける図 6。
2. タップねじ#10 x ¾"とワッシャで、ROPS ピンをROPSアセンブリの左右に固定する図 6。
3. ROPS の穴に ROPS ピンを入れる図 6。



g038295

g038295

図 6

1. #180.170"のビットで穴を開ける
2. ワッシャ#10
3. タッピングねじ#10 x ¾"
4. ROPS ピン

3

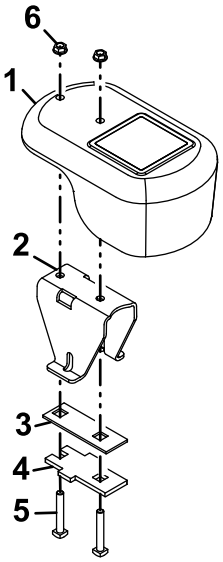
ウェイトキットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	重量
2	チャネルプレート
2	プレート
2	タブ付きプレート
4	ボルト⅜ x 2½"
4	ナット⅜"
2	平ウェイト

手順

1. ウェイトにプレートを取り付けるボルト⅜ x 2½"とナット⅜"を使用する図 7。

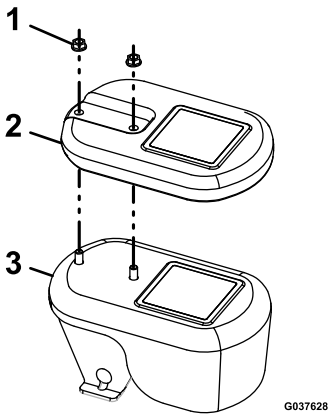


g185955

図 7

1. 重量
2. チャネルプレート
3. プレート
4. タブ付きプレート
5. ボルト⅜ x 2½"
6. ナット⅜"

2. 122 cm の刈り込みデッキを搭載しているマシンでは、ナット(⅜"を使ってウェイトアセンブリに平ウェイトを追加する図 8。

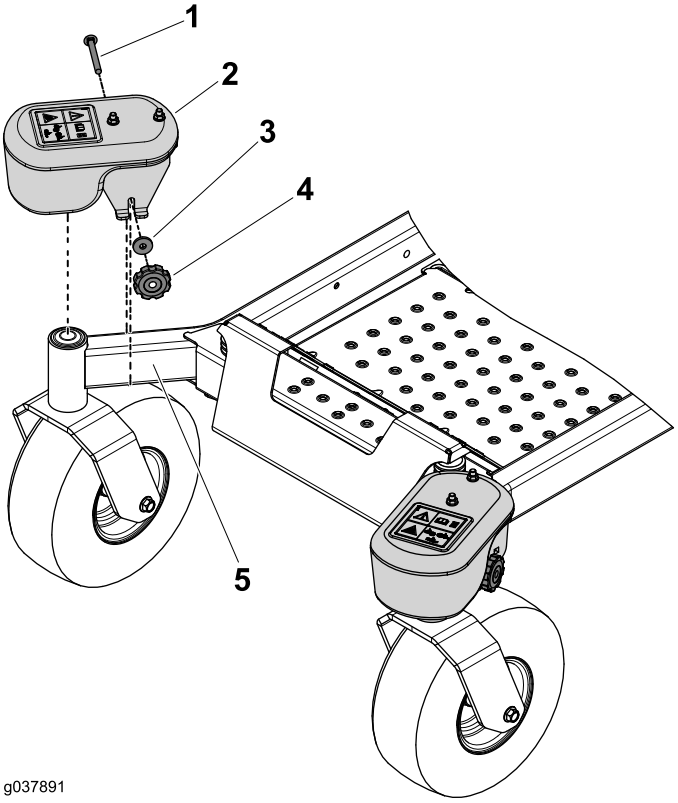


g037628

図 8

1. ナット⅜"
2. 平ウェイト
3. ウェイトアセンブリ

3. キャスタウェイトを各キャスタアームに固定するノブ、ワッシャ、キャリッジボルト⅜ x 3½"を使用する図 9。



g037891

g037891

図 9

1. キャリッジボルト⅜ x 3½"
2. 重量
3. ワッシャ
4. ノブ
5. キャスタアーム

4

バガーサポートを取りつける装着車の場合

この作業に必要なパーツ

1	左側バガーサポート
1	右側バガーサポート
4	ボルト5/16 x 3¼"
4	フランジナット5/16"
4	ワッシャ

手順

1. アッパートリムを機体に固定しているボルトとロックナットを外す図 10。

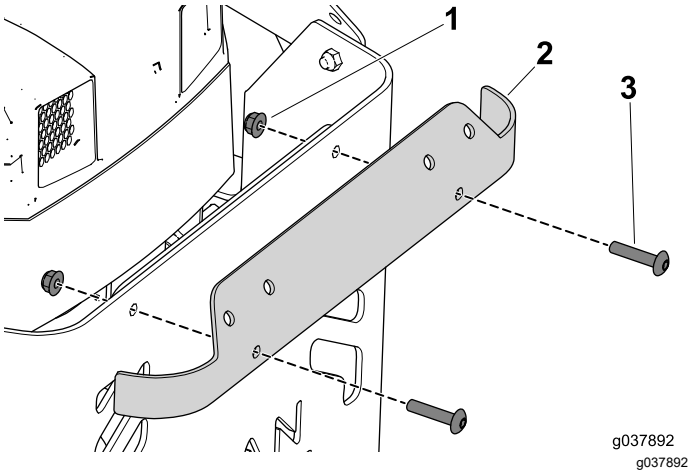


図 10

1. フランジナット
2. アッパートリム
3. ボルト

2. 後ガードをフレームに固定しているボルトとナットを外して捨てる図 11。

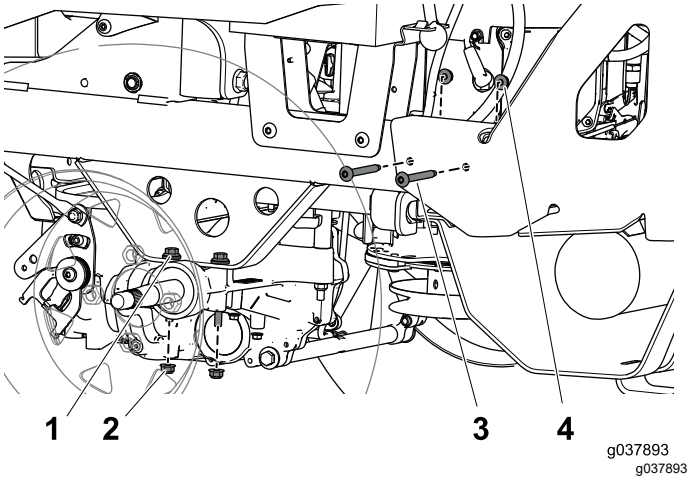


図 11

1. 左駆動アセンブリを固定しているボルト
2. 左駆動アセンブリを固定しているフランジナット
3. 後ガードを固定しているボルト
4. 後ガードを固定しているフランジナット

3. 左駆動アセンブリをフレームに固定しているフランジナット2個を外して脇に置く図 11。

   注 ボルトは外さないこと。

4. 駆動アセンブリのボルトに、サポートの穴を合わせて入れ、取り置いていたナットで仮止めする図 12。

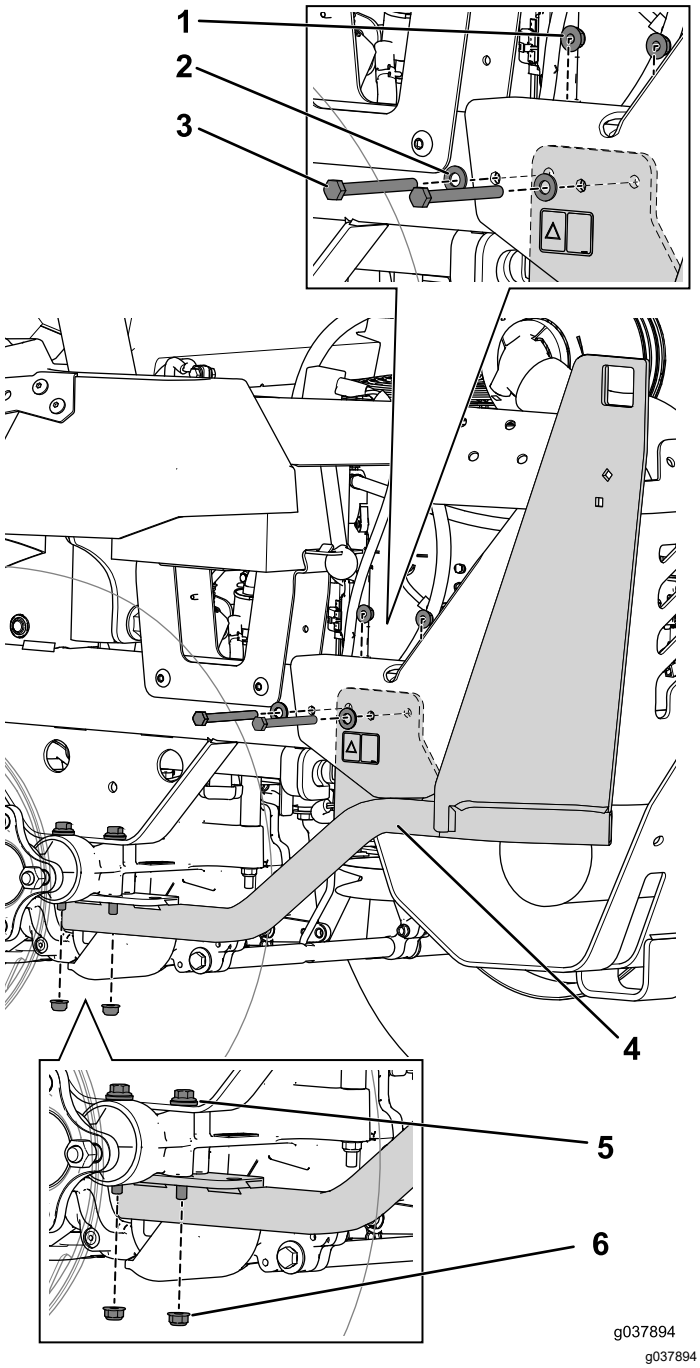


図 12

1. フランジナット5/16"
2. ワッシャ
3. ボルト5/16 x 3¼"
4. 左側バガーサポート
5. 駆動アセンブリのボルト
6. フランジナット5/16"

5. サポートをフレームに取り付けるボルト5/16 x 3¼"2本とナットを使用する図 12。

   注 サポート取り付けタブはフレームの内側ですデカルを隠さないようにします。

6. 先ほど取り付けた各取り付け具を締め付ける

7. 上記の手順で、右サポートフレームの取り付を行う。

5

トランスミッションサポートを取りつける

この作業に必要なパーツ

1	トランスミッションサポート

手順

1. 左右のトランスミッションについているサポートボルトからフランジナット2個を外して脇に置く図 13。

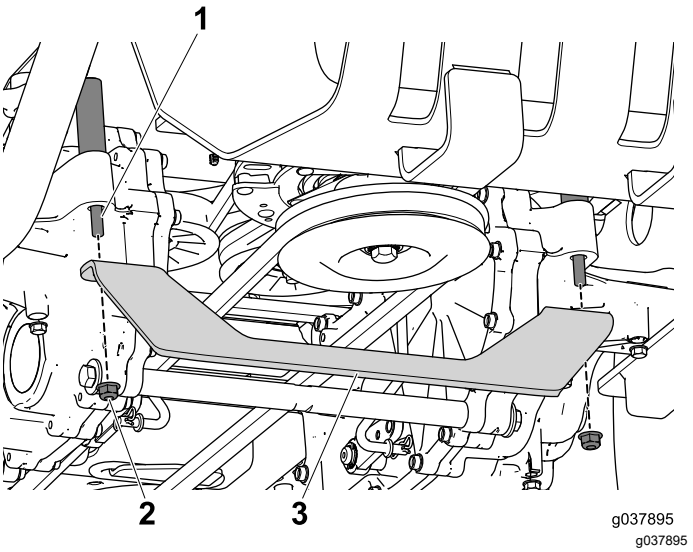


図 13

1. サポートボルト
2. フランジナット
3. トランスミッションサポート

2. サポートボルトにブラケットを取り付ける前のステップで外したフランジナット 2 個を使う図 13。

6

クロスブレースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	クロスブレース
4	六角ヘッドボルト⅝ x 7/16"
4	フランジナット5/16"

手順

1. クロスブレースを左右のバガーサポートに固定する六角ヘッドボルト5/16 x ⅞"2本とフランジナットを使う図 14。

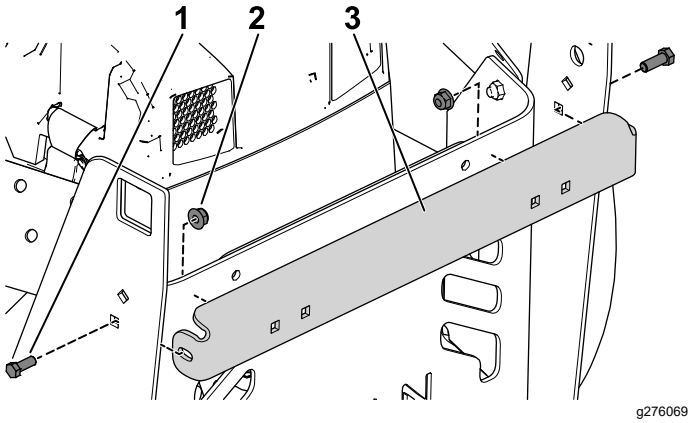


図 14

1. 六角ヘッドボルト⅝ x 7/16"
2. フランジナット5/16"
3. クロスブレース

2. 六角ヘッドボルト5/16 x ⅞"2本とフランジナットを使って、クロスブレースを後ガードに固定する図 15。

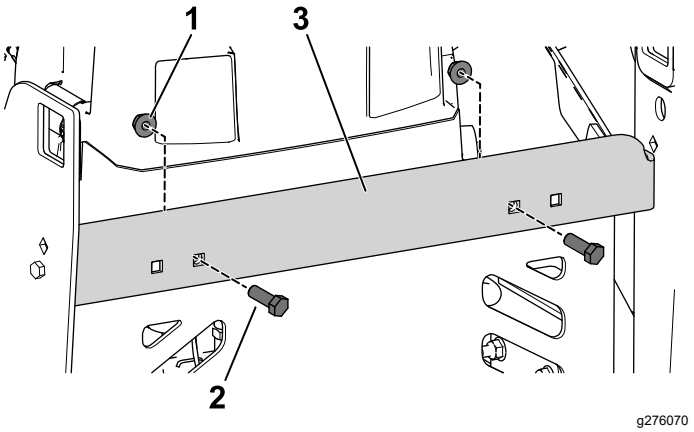


図 15

1. フランジナット5/16"
2. 六角ヘッドボルト⅝ x 7/16"
3. クロスブレース

7

ピボットアセンブリを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ピボットアセンブリ
1	ヘアピンコッター

手順

1. ピボットアセンブリの四角い方の端部を、左側バガーサポートの穴と、右側バガーサポートのポストに通す図 16。

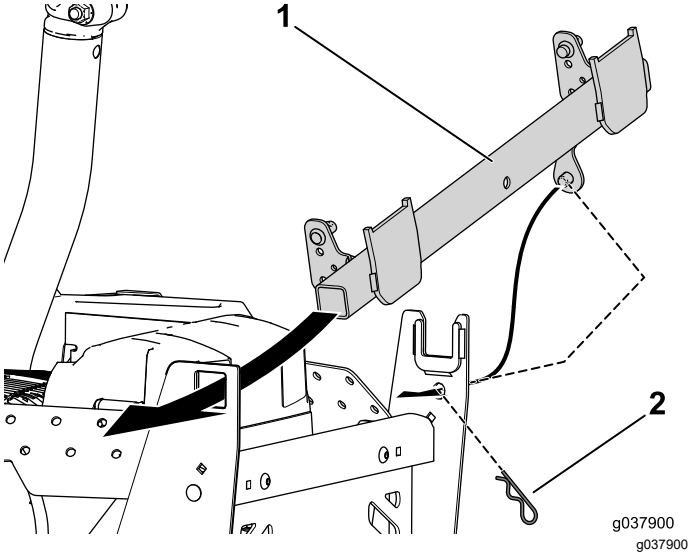


図 16

1. ピボットアセンブリ
2. ヘアピンコッター

2. 取り付けポストにヘアピンコッターを通して、ピボットアセンブリをバガーサポートに固定する図 16。

8

押さえ棒を取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	押さえ棒
1	ヘアピンコッター

手順

1. ピボットアセンブリに押さえ棒を取り付ける図 17。

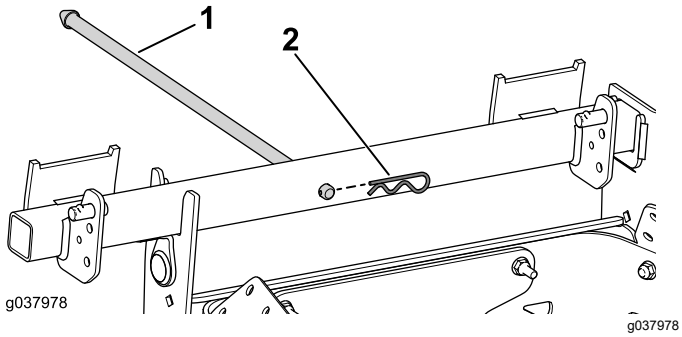


図 17

1. 押さえ棒
2. ヘアピンコッター

2. ヘアピンコッターで押さえ棒をピボットアセンブリに固定する図 17。

9

フードを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	フード
1	芝草スクリーン
2	ヘアピンコッター

手順

ヘアピンコッターピン2本で、芝草スクリーンをフードに固定する図 18。

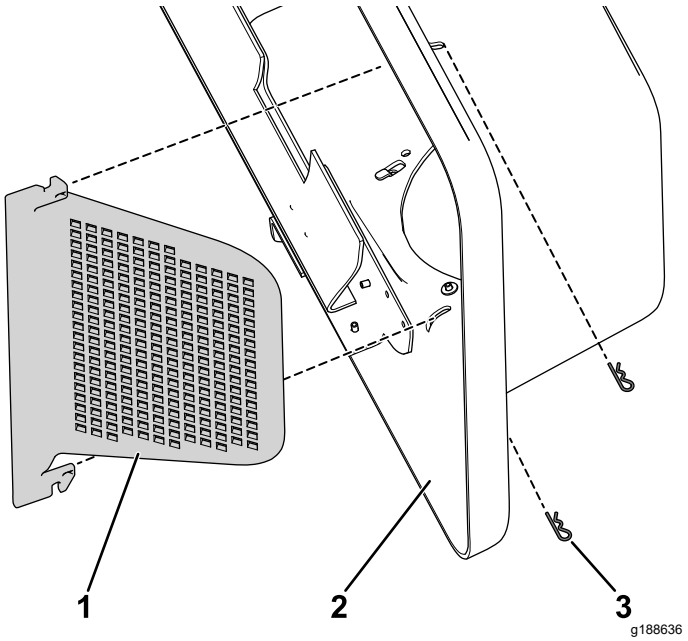


図 18

1. 芝草スクリーン
2. フード
3. ヘアピンコッター

10
フードを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	フードアセンブリ

手順

1. エアフィルタのフックを外してフィルタを前方に回し、バガーフードの取り付けようのすきまを作る図 19。

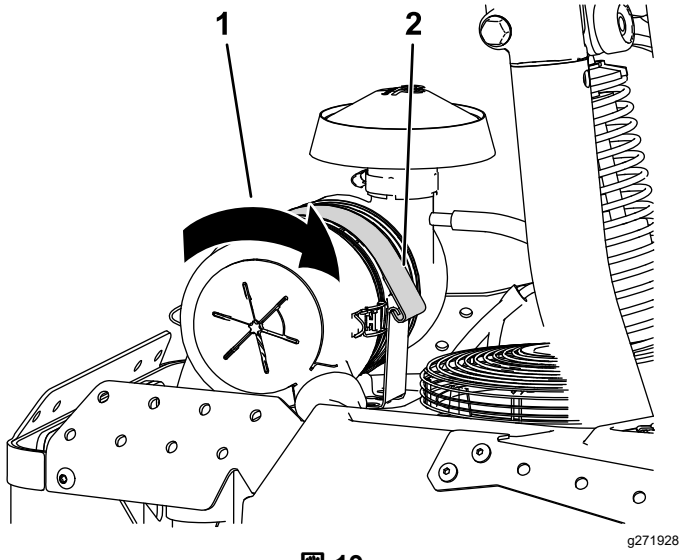


図 19

1. エアフィルタを前方に回す。
2. エアフィルタのフック

2. ピボットブラケットのキー穴を、ピボットピンのキーに合わせて取り付ける図 20。

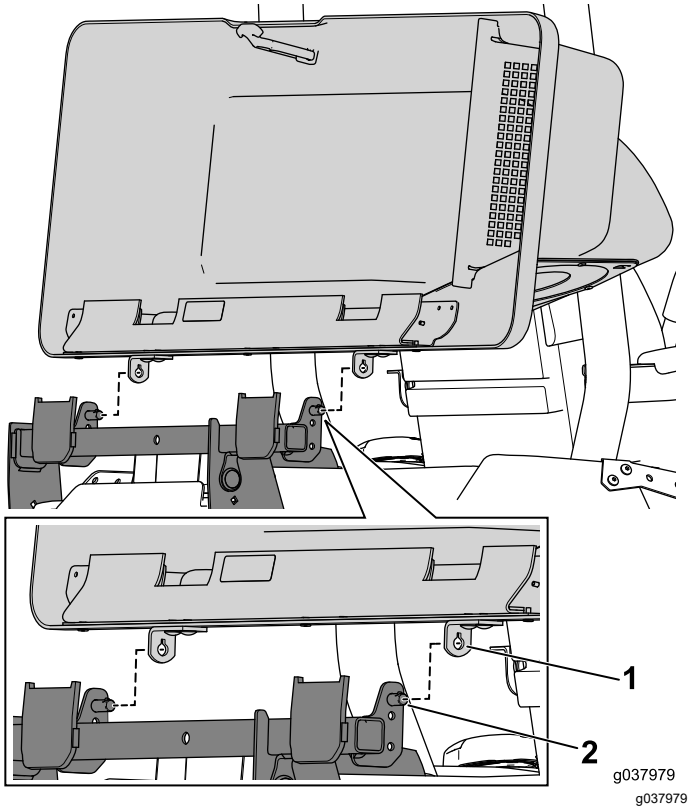


図 20

1. ピボットブラケット
2. ピボットピン

3. フードを降ろし、ピボットピンを掛ける。
4. エアフィルタを元の位置に戻してフックで固定する図 19。

11
バッグを取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	バッグ

手順

ピボットアセンブリにバッグを取り付ける図 21。

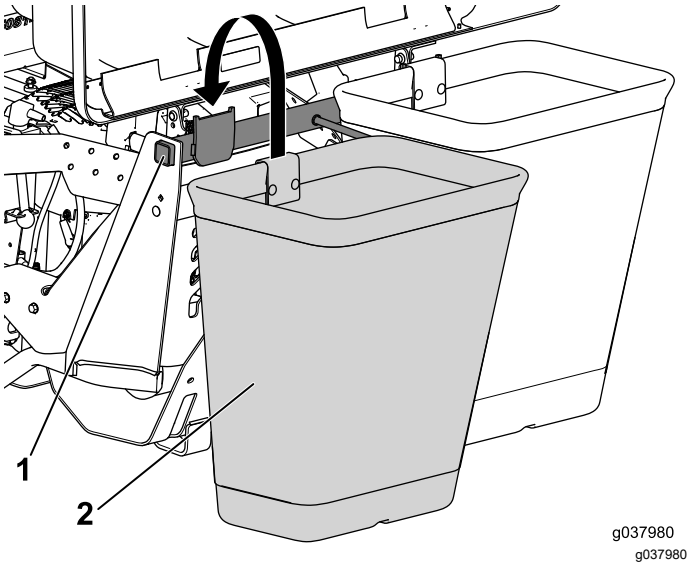


図 21

1. バッグ
2. ピボットアセンブリ

12

ヒッチカバーを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ヒッチカバー

手順

1. ヒッチカバーのニップルに潤滑剤を注入する。
2. ヒッチの上からヒッチカバーを取り付ける図 22。

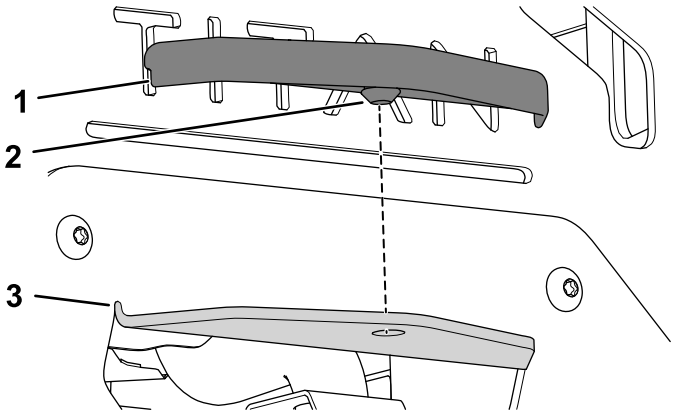


図 22

1. ヒッチカバー
2. ニップル
3. ヒッチ

13

既存のベルトカバー、ブラケット、排出シュートを取り外す

必要なパーツはありません。

手順

注 ベルトを取り外す前に、周囲をきれいにしてしてください。

1. 刈り込みデッキを、一番低い刈高に降下させる。
2. 右側のベルトカバーを取り外す図 23。

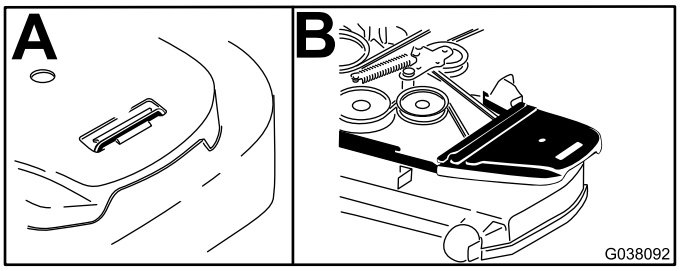


図 23

3. 刈り込みデッキから、右ベルトカバーブラケット、**ワッシャ60" のデッキのみ2枚**、フランジナット 2 個を取り外す図 24。

   注 ROPSを外したときの金具類は、再取り付けに便利なように、すべて保管してください。

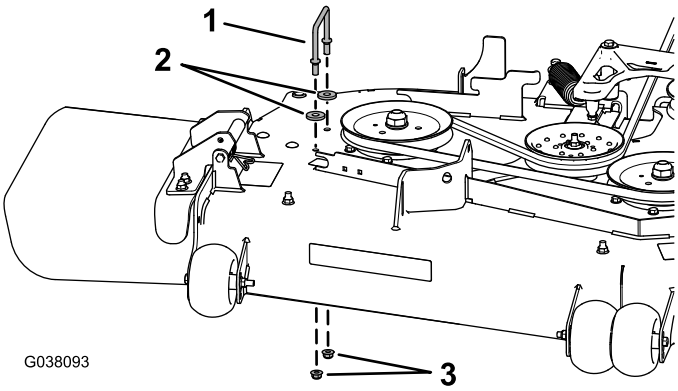


図 24

1. 右側ベルトカバーブラケット
2. ワッシャ152 cm デッキのみ
3. フランジナット

4. デフレクタをピボットブラケットに固定しているロックナット、ボルト、スプリング、スペーサを外す(図 25)。

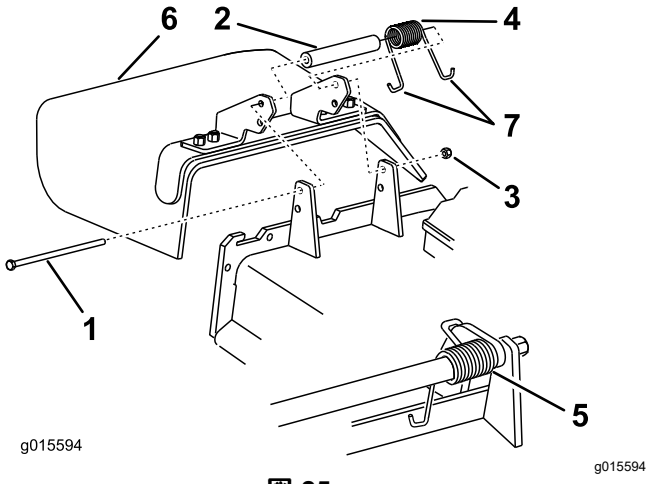


図 25

1. ボルト
2. スペーサ
3. ロックナット
4. スプリング
5. スプリングを取り付けた状態
6. デフレクタ
7. スプリングの J 字形フック

5. デフレクタを取り外す (図 25).

14

ブロアプーリアセンブリとベルトカバーブラケットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ブロアプーリアセンブリ
1	ベルトカバーブラケット
1	スピードナット
2	キャリッジボルト¼ x ¾"
2	ロックナット¼"
3	ロックナット⅜"
1	ブロアプーリ
1	ロックナット¾"
1	ワッシャ
1	プーリマウント

手順

1. 刈り込みデッキについているスプリング付きのアイドラプーリのスプリングの張力を解除する図 26または図 28を参照。

注 モデル 78483, 78484, 78485, 78401, 78402, 78403 のブロアでは、スプリング取り外し工具 Toro P/N 92-5771を使ってスプリングをデッキ上の固定部から外します図 27。

注 モデル 78486, 78487, 78488, 78404, 78405, 78406 のブロアでは、アイドラアームに四角いラチェットを差し込んで、スプリングのテンションをゆるめます図 28。

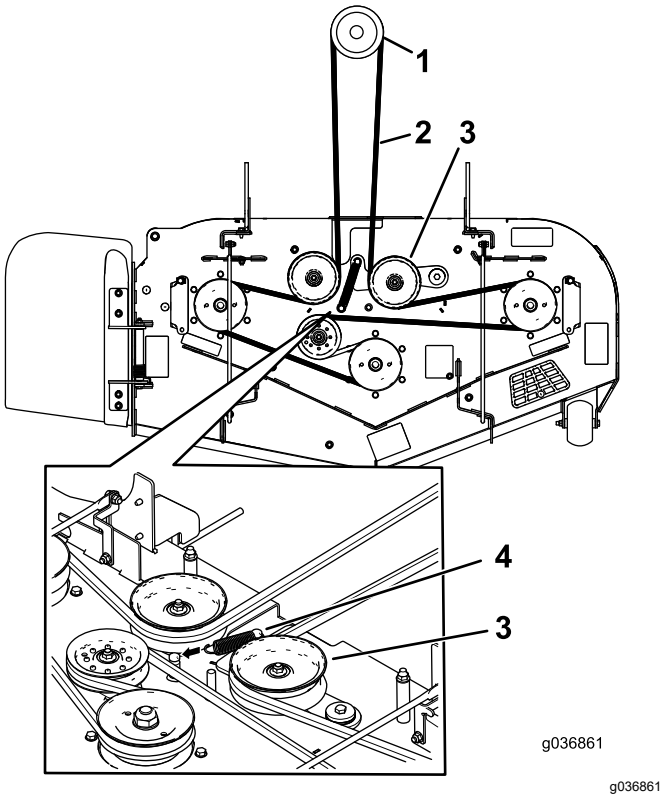
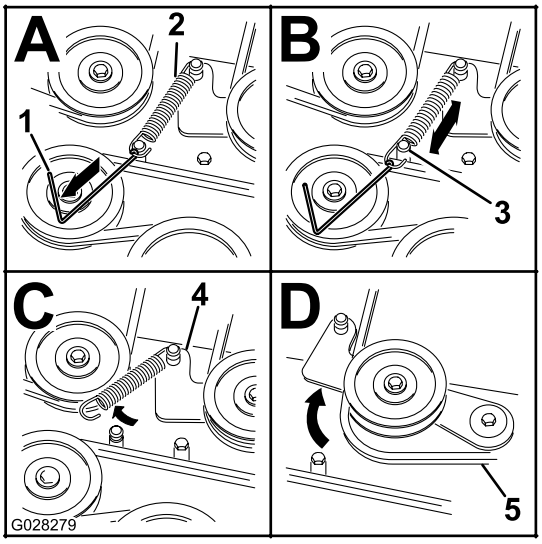


図 26

モデル 78483, 78484, 78485, 78401, 78402, 78403

1. クラッチプーリ
2. 刈り込みベルト
3. スプリング付きアイドラプーリ
4. スプリング

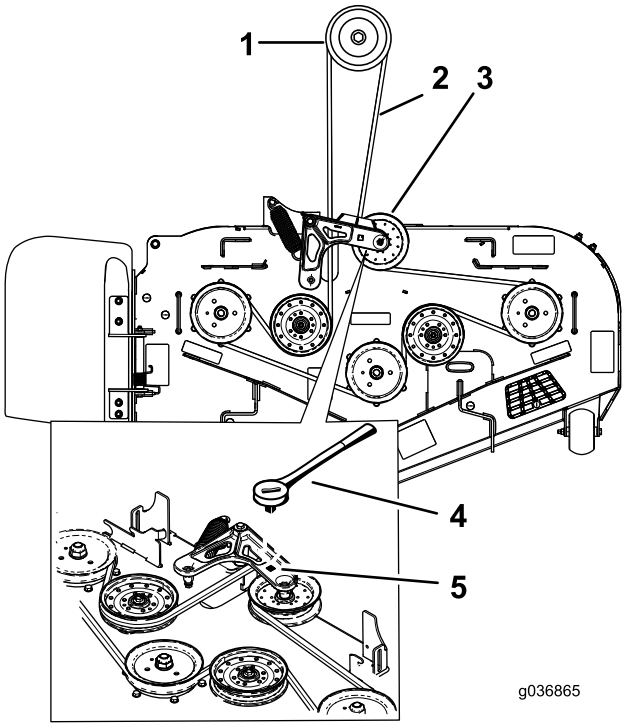


g028279

図 27

モデル 78483, 78484, 78485, 78401, 78402, 78403

1. スプリング取り外し工具 Toro P/N 92-5771
2. アイドラスプリング
3. デッキ上の取り付け部
4. アイドラアーム
5. 刈り込みベルト



g036865

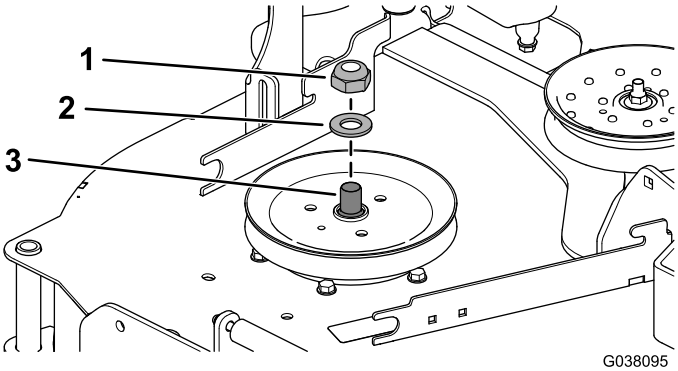
図 28

モデル 78486, 78487, 78488, 78404, 78405, 78406

1. クラッチプーリ
2. 刈り込みベルト
3. スプリング付きアイドラプーリ
4. ラチェット
5. アイドラアームの四角い穴ラチェット用

2. 右側デッキのプーリからベルトを取り外す。
3. スパナ1-1/2"でスピンドルシャフトを押えながら、ロックナット¾"とワッシャをスピンドルシャフトから外す図 29。

   注 モデル 78486, 78487, 78488, 78404, 78405, 78406 のブロアでは、ロックナット¾"とワッシャは使用しない。

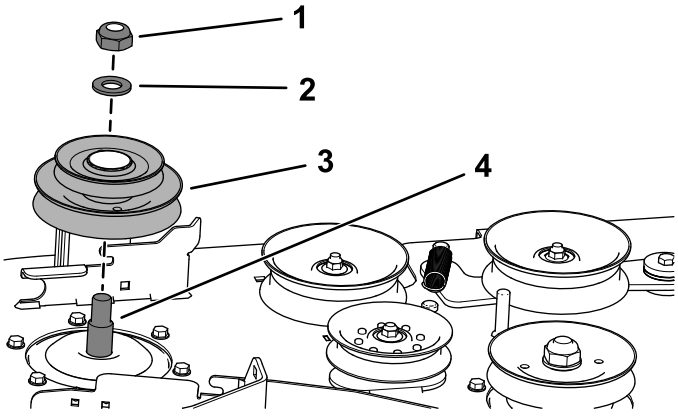


g038095

図 29

1. ロックナット¾"
2. ワッシャ
3. 右側スピンドルシャフト

4. スパナ1½"でスピンドルシャフトを押えながら、右側スピンドルシャフトにダブルプーリを取り付ける。
   - **モデル 78483, 78484, 78485, 78401, 78402, 78403 のブロア**では、以下の作業を行う
     A. ロックナット¾"とワッシャで、新しいダブルプーリを右側スピンドルシャフトに固定する図 30。
     B. ロックナット¾"を 176-217 N·m 13.8-15.2 kg.m = 130-160 ft-lbにトルク締めする。



g038253

図 30

1. ロックナット¾"
2. ワッシャ
3. ダブルプーリ
4. 右側スピンドルシャフト

- **モデル 78486, 78487, 78488, 78404, 78405, 78406 のブロア**では、以下の作業を行う

A. プーリマウントのスタッドを、デッキプーリの穴に通す図 31。

B. 先ほど外したロックナット¾"とワッシャで、デッキプーリをスピンドルシャフトに固定する図 31。

C. ロックナット¾"を 176-217 N·m 13.8-15.2 kg.m = 130-160 ft-lbにトルク締めする。

D. ねじ山付きのスタッドにブロアのプーリを取り付け、ロックナットで仮止めする図 31 。

E. ブロアのプーリを右へ止まるまで回す。

F. ロックナット3個を 18 N·m (1.8 kg.m = 13 ft-lbにトルク締めする。

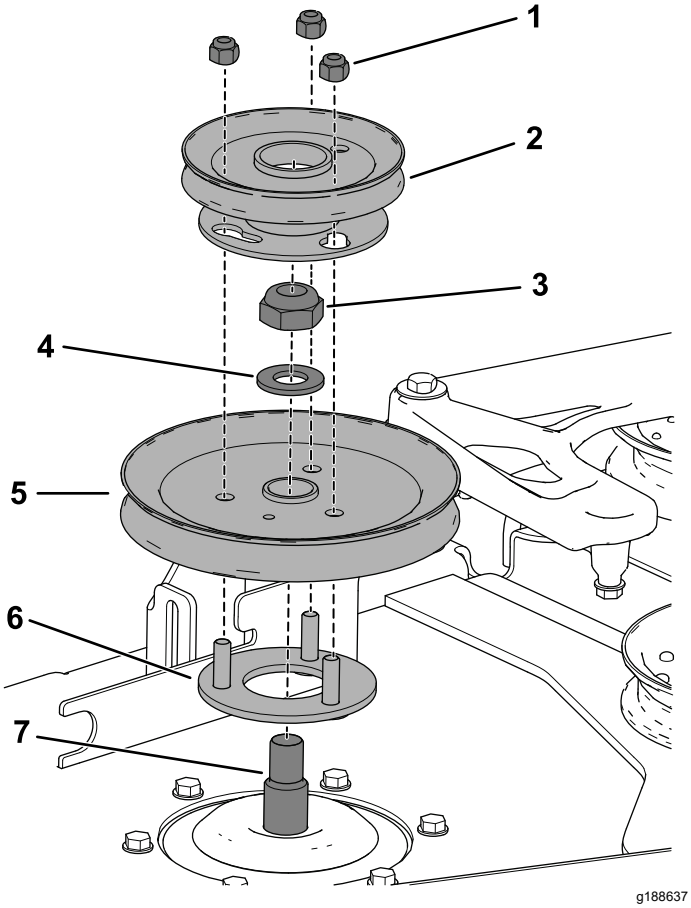


図 31

1. ロックナット⅜"
2. ブロアプーリ
3. ロックナット¾"
4. ワッシャ
5. 既存のデッキプーリ
6. プーリマウント
7. 右側スピンドルシャフト

5. 各ブレードボルトを 115-149 N·m11.8-15.2 kg.m = 85-110 ft-lbにトルク締めする。

6. ダブルプーリの下側のプーリに刈り込みベルトを掛け回す図 32。

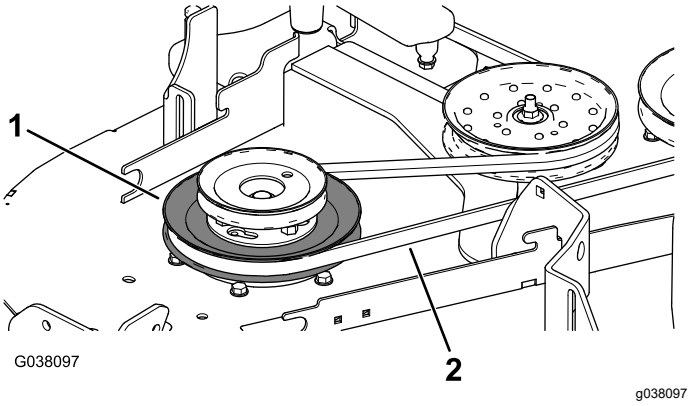


図 32

1. 下プーリ
2. 刈り込みベルト

7. デッキにベルトカバーブラケットを取り付けるキャリッジボルト¼ x ¾"2本とロックナット¼"2個を使用して図 33のように取り付ける。

8. ベルトカバーブラケットに、スピードナットを取り付ける図 33。

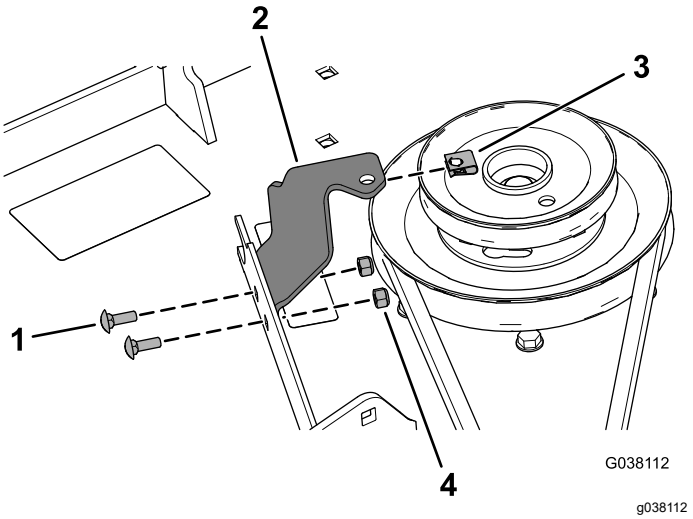


図 33

1. キャリッジボルト¼ x ¾"
2. ベルトカバーブラケット
3. スピードナット
4. ロックナット¼"

9. スプリング付きのアイドラプーリに刈り込みベルトを取り付ける図 26または図 28。

10. スプリング取り外し工具Toro P/N 92-5771を使って、スプリング付きアイドラアセンブリにスプリングを取り付ける。

15

バッフルを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	バッフル
1	キャリッジボルト5/16 x ⅞"
1	フランジナット5/16"
2	キャリッジボルト⅜ x ⅞"
2	フランジナット⅜"

手順

1. デッキから既存のフランジナット⅜"2個とキャリッジボルト3/8 x 7/82本を外す図 34。

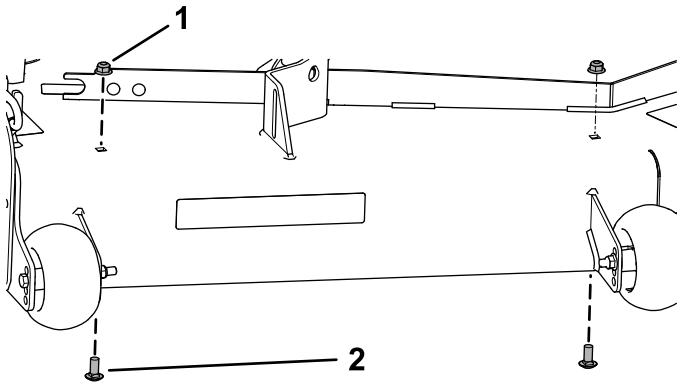


図 34

1. フランジナット⅜"
2. キャリッジボルト⅜ x ⅞"

2. 図 35のように、バッフルを取り付けるボルト5/16 x 7/8"、フランジナット5/16"、キャリッジボルト⅜ x ⅞"2本、フランジナット⅜"2個を使用する。

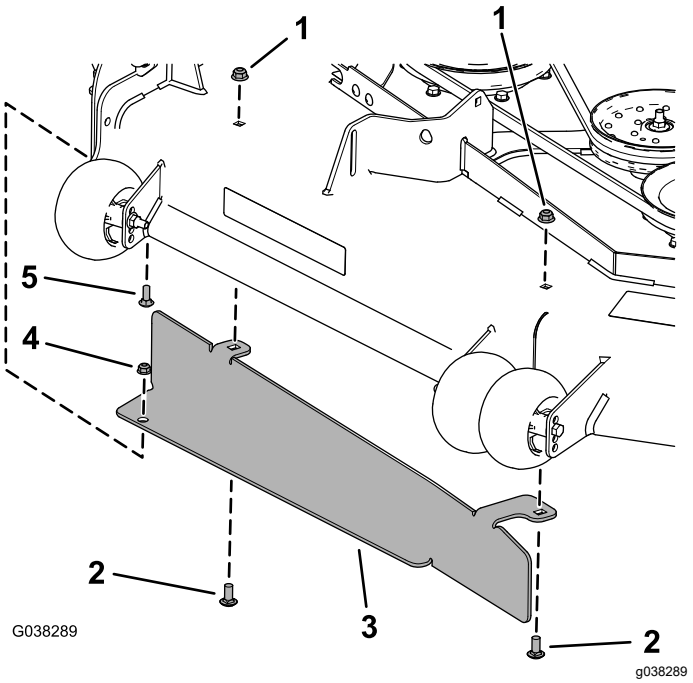


図 35

1. フランジナット⅜"
2. キャリッジボルト⅜ x ⅞"
3. バッフル
4. フランジナット5/16"
5. キャリッジボルト5/16 x ⅞"

16

ブロアアセンブリを取り付ける

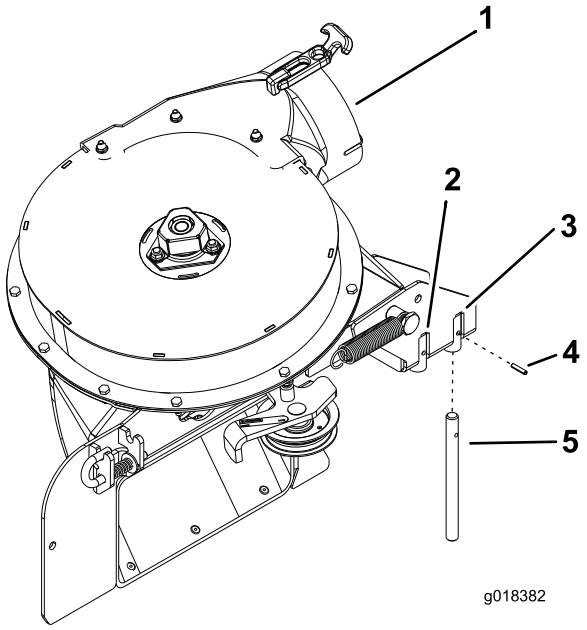
この作業に必要なパーツ

1	ブロアアセンブリ
1	ブロアベルト
1	ピボットピン
1	ロールピン3/16 x ⅞"

モデル 78483-78488 のブロア

ピボットピンがブロアアセンブリの所定位置に固定されていることを確認する図 36。

- 48" と 52" のデッキでは、ピボットピンを前側の穴に取り付ける図 36。
- 60" のデッキでは、ピボットピンを後側の穴に取り付ける図 36。



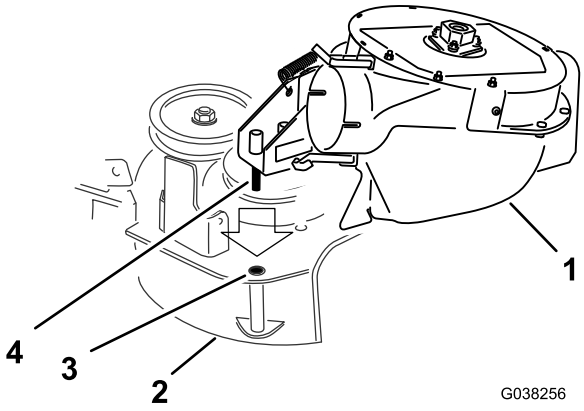
g018382

図 36

図は 60" デッキ用のブロア

1. ブロアアセンブリ
2. 前穴48" デッキと 52" のデッキの場合
3. 後穴60" デッキの場合
4. ロールピン3/16 x ⅞"
5. ピボットピン

1. ブロアのピボットピンを、刈り込みデッキのピボットピン穴に合わせる図 37。



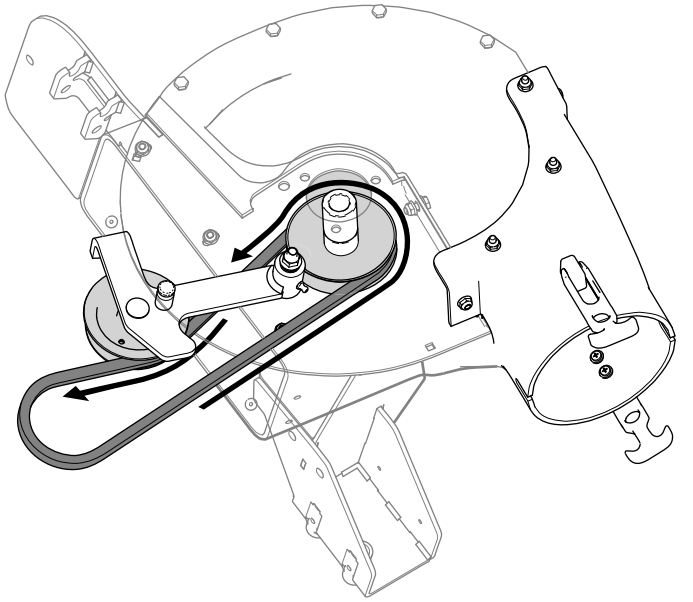
g038256

図 37

デッキピボット穴にブロアを取り付ける。

1. ブロアアセンブリ
2. デッキ
3. ピボット穴
4. ブロアのピボットピン

2. ブロアプーリにブロアベルトを取り付ける図 38。



g188822

図 38

3. ブロアを降ろしてピボットピンを穴に通す図 37。

   注 ウロアベルトがプーリからずれていないことを確認してください。

4. ラッチピンをロック位置から開放位置にする図 39。

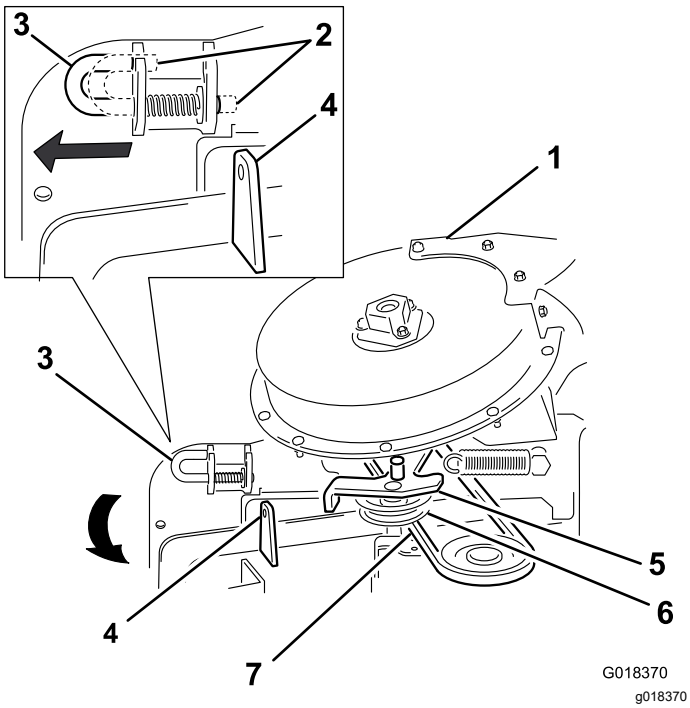


図 39
ブロアをシュートブラケットに固定する

1. ブロアアセンブリ
2. ラッチピンロック位置
3. ラッチピン開放位置
4. シュートブラケット
5. アイドラピボットブラケット
6. アイドラプーリ
7. ブロアベルトアイドラプーリの下

5. ブロアアセンブリを閉じて、ラッチピンをシュートブラケットの穴に合わせる図 39。
6. ラッチピンをロック位置にセットする。

   注 ラッチピンがシュートブラケットの穴に完全に嵌るようにきちんとセットしてください。

   注 ブロアアセンブリがラッチによって刈り込みデッキに確実に固定されているが、手でラッチを外すことは可能であることを確認してください。

モデル 78401-78486 のブロア

ピボットピンがブロアアセンブリの所定位置に固定されていることを確認する図 40。

- 48" と 52" のデッキでは、ピボットピンを前側の穴に取り付ける図 40。
- 60" のデッキでは、ピボットピンを後側の穴に取り付ける図 40。

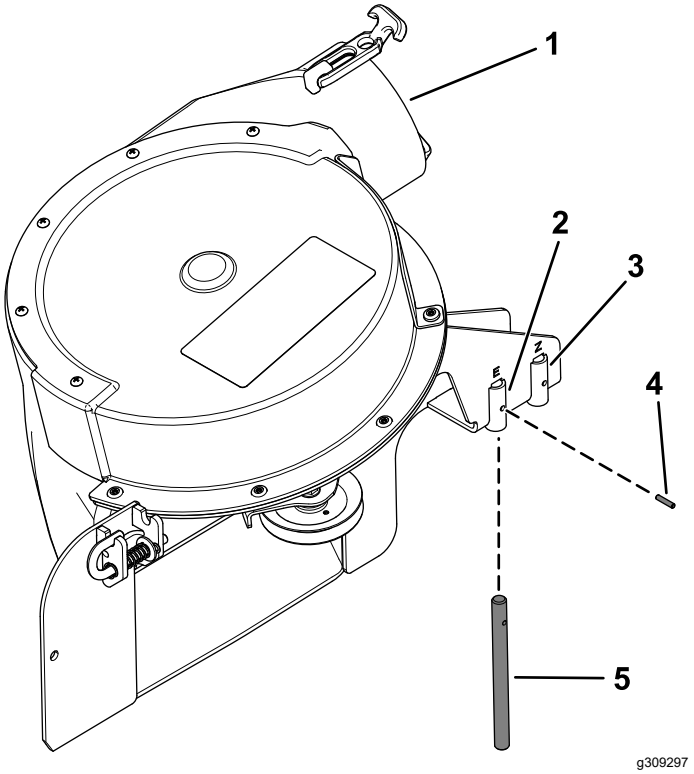


図 40
図は 48" および 52" デッキ用のブロア

1. ブロアアセンブリ
2. 前穴48" と52" のデッキの場合
3. 後穴60" デッキの場合
4. ピボットピン
5. ロールピン

1. ブロアのピボットピンを、刈り込みデッキのピボットピン穴に合わせる図 41。

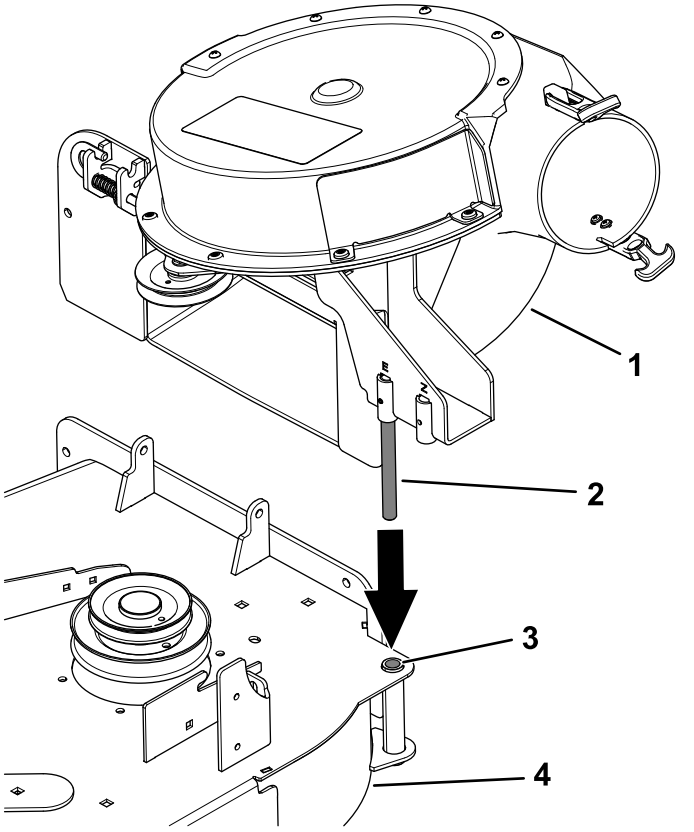


図 41

1. ブロアアセンブリ
2. ブロアのピボットピン
3. ピボット穴
4. デッキ

2. ブロア内部のプーリに、ベルトを掛ける図 42。

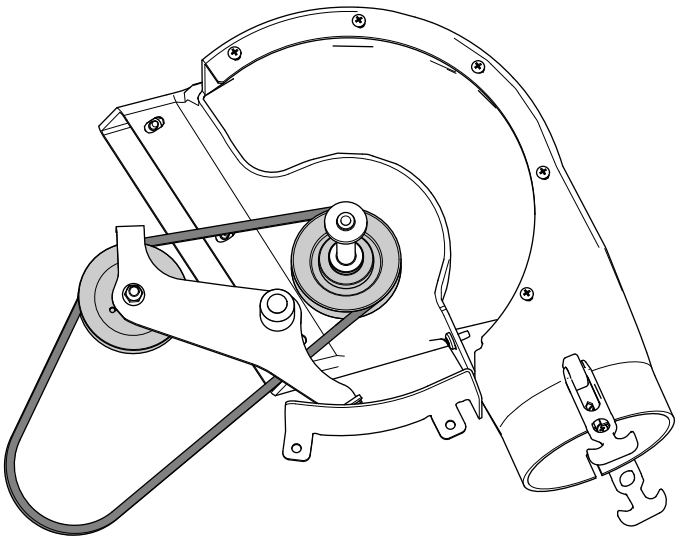


図 42

3. ブロアを降ろしてピボットピンを穴に通す図 41。

   注 ベルトがプーリからずれていないことを確認してください。

4. ラッチピンをロック位置から開放位置にする図 43。

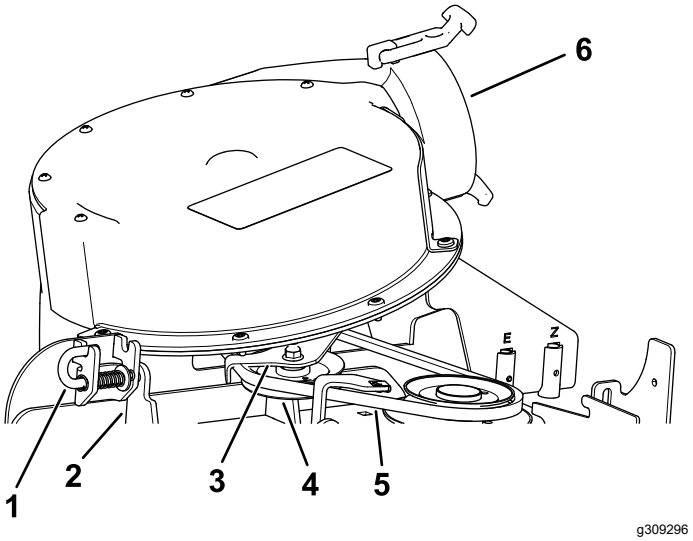


図 43

1. ラッチピン
2. シュートブラケット
3. アイドラピボットブラケット
4. アイドラプーリ
5. ベルトアイドラプーリの下
6. ブロアアセンブリ

5. ブロアアセンブリを閉じて、ラッチピンをシュートブラケットの穴に合わせる図 43。
6. ラッチピンをロック位置にセットする。

   注 ラッチピンがシュートブラケットの穴に完全に嵌るようにきちんとセットしてください。

   注 ブロアアセンブリがラッチによって刈り込みデッキに確実に固定されているが、手でラッチを外すことは可能であることを確認してください。

17

ブロアベルト、スプリング、ブロアベルトカバーを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ブロアベルトカバー
1	カバーのノブ

モデル 78483-78488 のブロア

1. 駆動プーリにブロアベルトを取り付ける図 44。

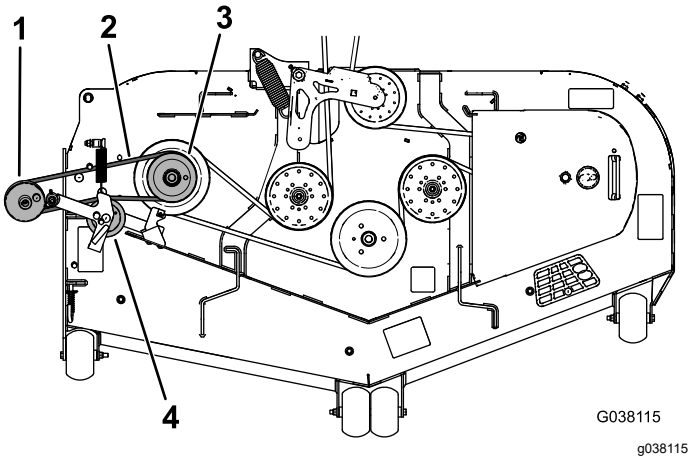


図 44

ブロアプーリを見せるためにブロアアセンブリは図示していない

1. ブロアプーリ
2. ブロアベルト
3. 駆動プーリ
4. アイドラ/テンションプーリ

2. アイドラプーリの下にベルトを仮置きする図 45。

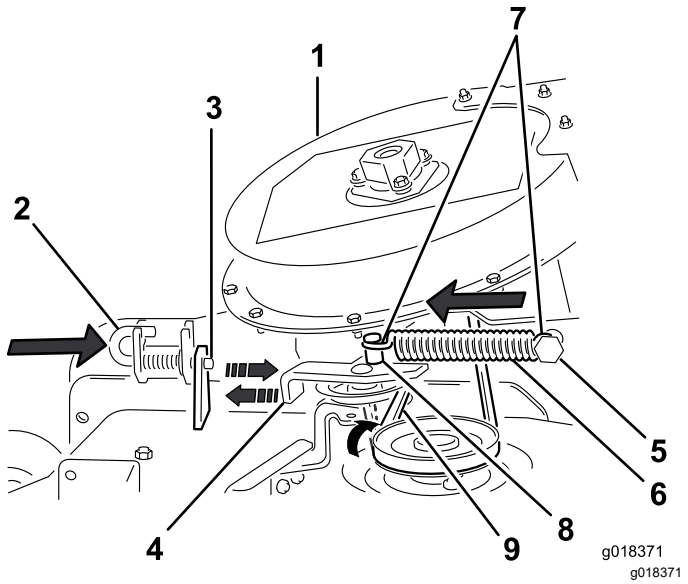


図 45

テンションスプリングを取り付けてベルトを整列させる

1. ブロアアセンブリ
2. ラッチピンロック位置
3. シュートブラケット
4. アイドラピボットブラケット
5. 固定スプリングポスト
6. スプリング
7. スプリングフックの端部
8. アイドラスプリングポスト
9. ベルトアイドラプーリに整列させた状態

3. アイドラピボットブラケットを、固定スプリングポスト側に倒して、スプリングのフックをアイドラスプリングポストに取り付ける図 45。

   注 スプリングのフックがポストに正しく入っていることを確認してください。

4. スプリング付きアイドラプーリをスプリングポストから引き離し、ベルトを刈り込みデッキのプーリに回しかける図 45。

   注 ブロアプーリにベルトを正しく回しかけてあることを確認してください。

5. ブロアベルトにベルトカバーを取り付け、ベルトノブで固定する図 46。

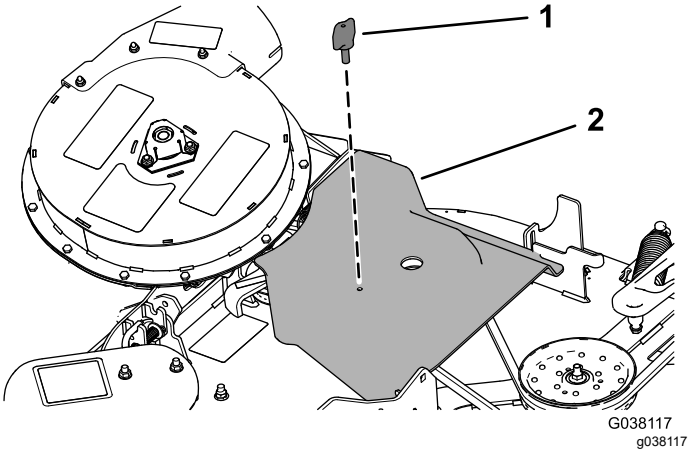


図 46

1. カバーのノブ
2. ブロアベルトカバー

モデル 78401-78486 のブロア

1. スプリング付きアイドラプーリをゆるめ、ベルトを駆動プーリに取り付ける図 47。

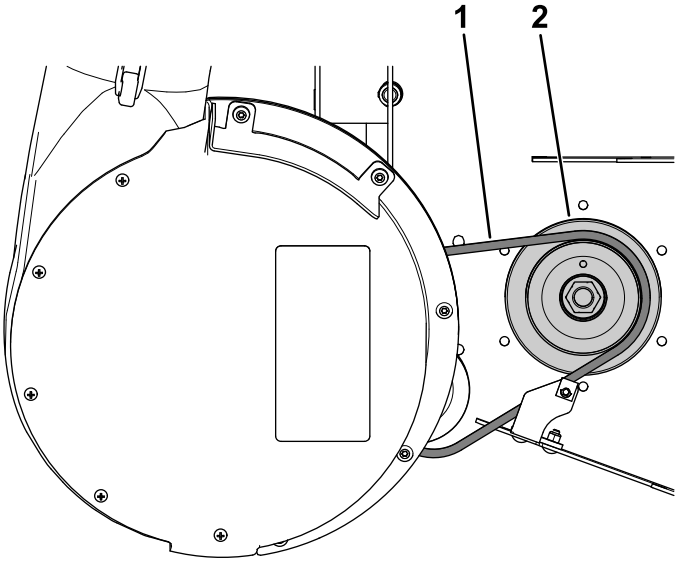


図 47

1. ブロアベルト
2. 駆動プーリ

2. ブロアベルトにベルトカバーを取り付け、ノブで固定する図 48。

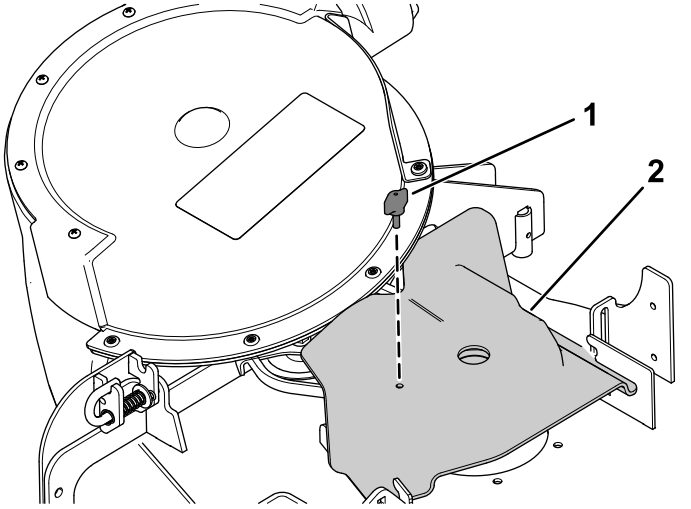


図 48

1. ノブ
2. ベルトカバー

18

排出チューブを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	上チューブ
1	下側チューブ
3	ボルト#10 x ¾"
3	ロックナット#10
3	ワッシャ7/32"

手順

1. PTOを解除し、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. 刈り込みデッキを、一番低い刈高に設定する。
4. フードの下からチューブが見えるようにするためにバッグを取り外す。
5. 以下の要領で、上側チューブを短くする
   A. 上側チューブについている 3 つの穴を探し出す。チューブの端から上に 152 mm を測って、3 つのエリアすべてにマーキングする図 49。

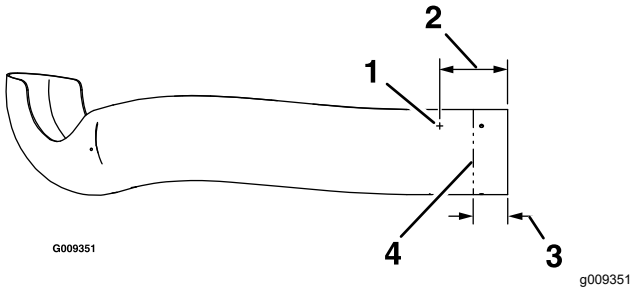


図 49

1. 新しい穴の位置
2. 152 mm を測る
3. 3 箇所で測定76-89 mm
4. ここでチューブを切断する

   B. 穴4.8 mmを 3 つ、図 49のように開ける。
   C. 3 箇所で測定するチューブの端から 76-89 mm にマーキングし、マスキングテープでチューブに目印を付ける図 49。
   D. チューブを注意深く切断する。切り落とした端は廃棄する。
6. 上側チューブをバガー開口部に取り付けて、ホッパーシールが出るところまで引き出す図 50。

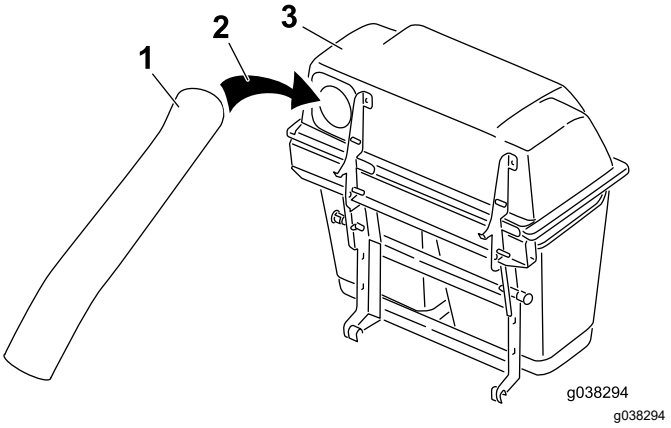


図 50

1. 上チューブ
2. バガー開口部
3. バガーフード

7. 上チューブについているくぼみディンプルが、ホッパーシールをホッパーに固定しているねじのちょうど中間にくるようにする図 51。

注 ホッパーシールがバガーのフードから外側に出ていることが必要です。

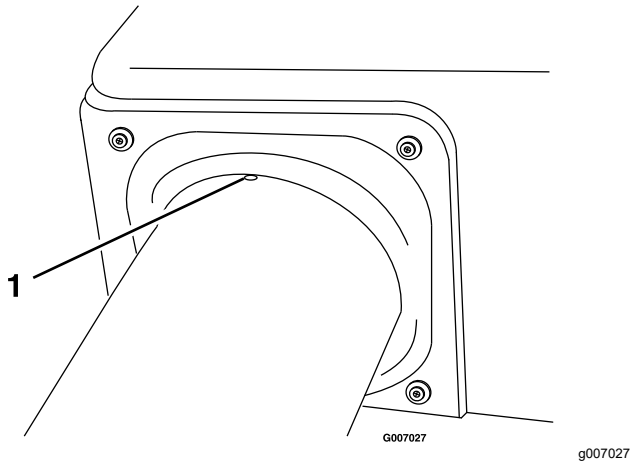


図 51

1. くぼみディンプル

8. 上側チューブに下側チューブを接続する図 52。

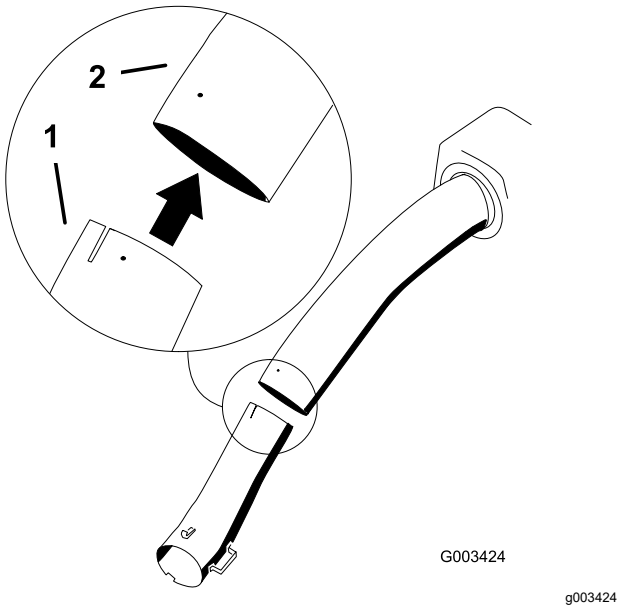


図 52

1. 下側チューブ
2. 上側チューブ

9. 下側チューブをブロアハウジングに差し込んでラッチで固定する図 53。

注 ブロアハウジングの上下にラッチがあります。

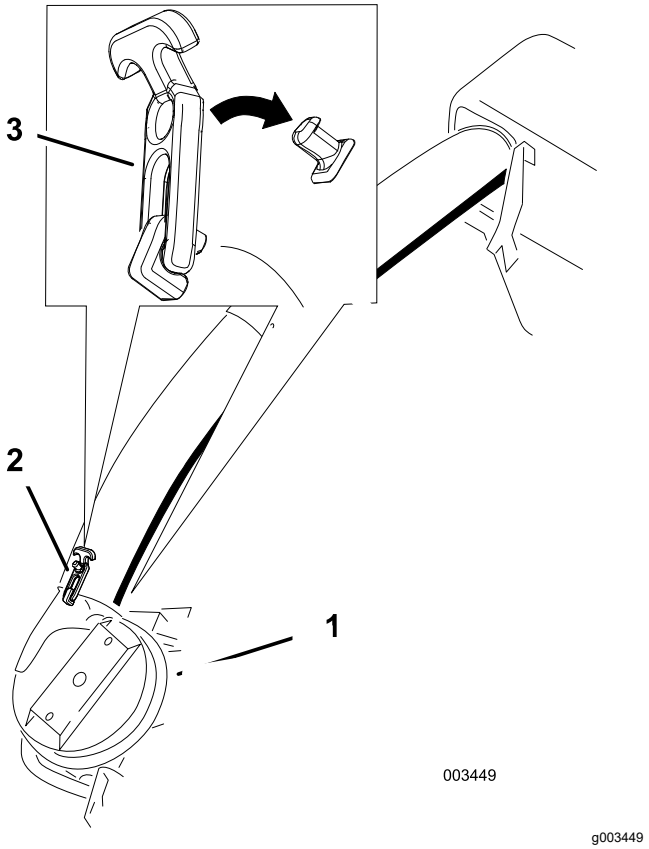


図 53

1. ブロアアセンブリ
2. 下側チューブ
3. ラッチ図はツインバガー

10. 刈り込みデッキを、一番低い刈高に設定する。
11. 図 51からのディンプルくぼみの位置が正しいことを確認する。

12. 上チューブにある3つの穴くぼみを型紙にして、上下のチューブが接続する部分に直径 5.6 mm のの穴を 3 つ開ける図 54。

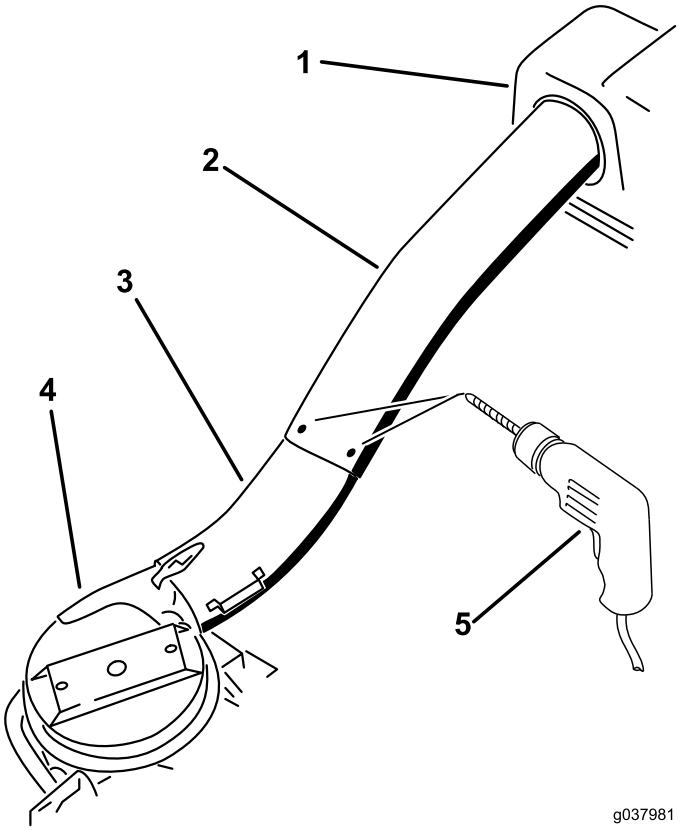


図 54

1. バガーフード
2. 上チューブ
3. 下側チューブ
4. ブロアアセンブリ
5. 5.6 mm の穴をあける

13. ブロアハウジングから下側チューブを外す。
14. 上下のチューブを相互に接続する ボルト#10 x ¾"3本、平ワッシャ、ロックナットを使用して図 55 のように取り付ける。

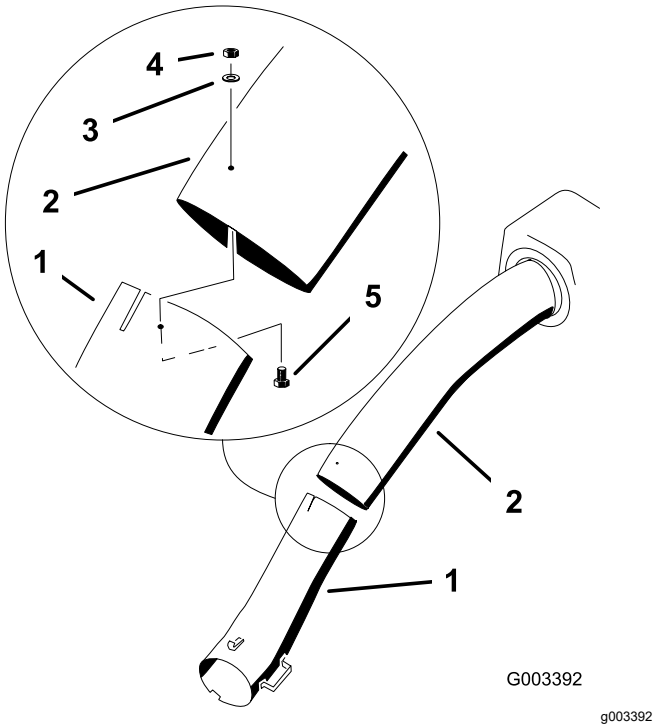


図 55

1. 下側チューブ
2. 上側チューブ
3. 平ワッシャ7/32"
4. ロックナット#10
5. ボルト#10 x ¾"

15. 下側チューブをブロアハウジングに取り付け、ラッチで固定する。

19

駐車ブレーキの調整

必要なパーツはありません。

手順

駐車ブレーキが適切に調整されていることを確認する。調整手順については*オペレーターズマニュアル*を参照のこと。

20

タイヤ空気圧を点検する

必要なパーツはありません。

手順

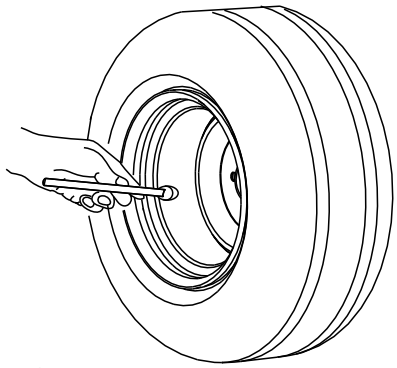
ウェイト搭載分を補填するためにタイヤ空気圧を大きくする必要があります。

注 ただし、セミニューマチックタイヤでは、関係ありません。

前キャスタタイヤおよび後タイヤの空気圧を点検し、適正値に調整する図 56。

後タイヤの空気圧1.38bar 1.4 kg/cm2 = 20psi

前キャスタホイールの空気圧1.72bar 1.75 kg/cm2 = 25psi。



G001055

g001055

図 56

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

⚠ 警告

人身事故や電気系統の破損を防止するために以下の注意を厳守すること

- **このアタッチメントを使用する前に、必ず刈り込み装置の*オペレーターズマニュアル*をよく読み、操作方法と安全上の注意を十分に理解する。**
- **エンジン作動中には絶対に、排出チューブや、バガートップやシュートを取り外さない。**
- **バガーが詰まった場合には、かならずエンジンを停止し、機械の可動部がすべて完全 に停止してから詰まりの解消作業に掛かる。**
- **絶対に、エンジンを掛けたままで整備や修理を行わない。**

⚠ 警告

デフレクタ、バガーチューブ、あるいはバガーアセンブリを取り付けずに刈り込み作業を行うことは、自分自身や周囲の人間を回転刃やそれに飛ばされてくる異物の危険にさらす危険行為であることを理解する。回転刃に触れたり、回転刃に跳ね飛ばされたものに当たると大けがをしたり最悪の場合には死亡事故となる。

- **バガーを取り外した場合には、必ずデフレクタを取り付け、側方排出モードにしてからマシンを使用する。**
- **デフレクタが万一破損しているのを発見した場合には直ちに交換すること。デフレクタは刈かすなどの排出方向をターフに向けるための部品である。**
- **カッティングデッキの下には絶対に手足を差し入れないこと。**
- **刈り込みデッキの排出部や刈り込みブレードの近くを清掃する時には必ずPTOを解除OFFし、エンジンのキーを抜き取る。また、キーを抜き取ったら、点火プラグの高圧コードも外しておく。**
- **シュートが詰まった場合にも、必ずエンジンを停止させてから詰まりの解消を行う。**

集草バッグにたまった刈かすを捨てる

⚠ 警告

刈りかす、木の枝などは燃える可能性がある。エンジン付近で火災が起こると人身事故や物損事故になる恐れがある。

- **エンジンやマフラーの付近にごみを貯めないように注意すること。**
- **バガーのカバーを開く時に、内部のごみをエンジンやマフラーの上に落とさないように注意すること。**
- **機械の格納はエンジンが十分に冷えてから行う。**

刈かすが入った集草バッグは非常に重い。刈かすが入った集草バッグの取り扱いには十分注意すること。

1. 平らな場所に駐車し、ブレードコントロールスイッチを切る。
2. 走行コントロールレバーを外側に開いてニュートラルロック位置にし、エンジンを停止し、キーを抜き取り、駐車ブレーキを掛け、各部が完全に停止したのを確認してから運転席を降りる。
3. バガーのラッチを外す。
4. バガーフードを開ける。
5. 刈かすをバッグの中にしっかり押し込む。両手を使ってバッグを引っ張り上げバガーブラケットから外す。
6. バッグの下についている取っ手を握り、バッグを上下逆さまにして刈かすを捨てる図 57。

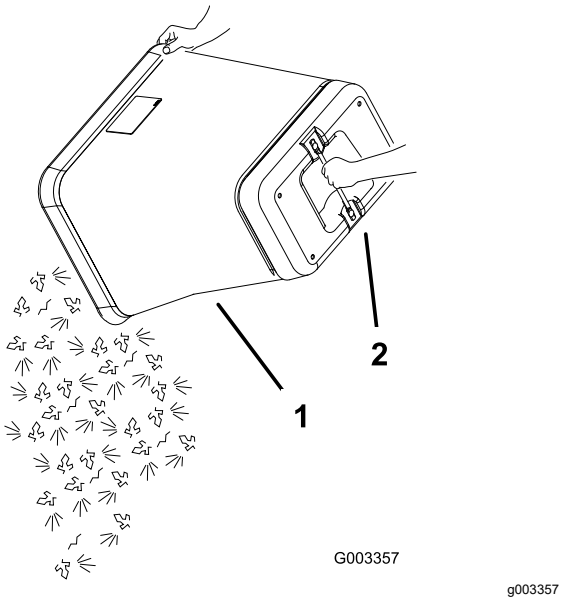


図 57

1. バッグ
2. 下部の取っ手

7. バッグのタブをバガーサポートのフレームのノッチに掛ける。
8. バガーフードを下ろす。
9. バガーフードにラッチを掛ける。

バガーが詰まった場合の対処

⚠ 警告

バガーが作動中はブロアが回転するので、これに手が触れると大けがをする可能性がある。

- **ブロアの調整、清掃、修理、点検、およびシュートの詰まりを取り除く前には、必ずエンジンを停止させ、機械の可動部がすべて完全に停止してから作業に掛かること。キーを抜き取る。**
- **シュートやブロアチューブの詰まりの除去には必ず棒などを使用し、決して素手で行わない。**
- **顔や手足や衣服を可動部に近づけないように十分注意し、カバーなどが付いていても過信しない。**

1. 平らな場所に駐車し、ブレードコントロールスイッチを切る。
2. 走行コントロールレバーを外側に開いてニュートラルロック位置にし、エンジンを停止し、キーを抜き取り、駐車ブレーキを掛け、各部が完全に停止したのを確認してから運転席を降りる。
3. 集草バッグに刈りかすがいっぱいにたまっている場合にはバッグを空にする。
4. 排出チューブとシュートとの接続を外す。棒などを使ってデッキ、排出チューブ、シュート、バガートップから詰まりを取り除く。
5. 詰まりが除去できたら、バガーシステムを元通りに組み立て、作業を再開する。

バガーの取り外し

⚠ 注意

バガーアタッチメントを外したのに、前バガーウェイトを取り外さずに運転すると、車体が不安定となって制御できなくなる可能性がある。

- **バガーアタッチメントを外したら、必ず前バガーウェイトも取り外すこと。**
- **バガーだけを外し、前バガーウェイトを付けたままでの運転は絶対にしてはならない。**

バガーを取り外すには、「組み立て」の章で実施したバガーの取り付け手順を逆に行ってください。ウェ

イトが取り付けられている場合は、バガーと共に必ず取り外してください。

注 マルチングキットを取り付ける場合には、カットオフバッフルだけを取り外します。

移動走行を行うとき

移動走行時には必ずバガーを空にしておいてください。

⚠ 危険

バガーに刈かすを入れたままで走行すると機体を破損させる恐れがあります。

移動走行時には必ずバガーを空にしておくこといてください。

ヒント

集草のコツ

サイズをしっかり頭に入れて

このアタッチメントを取り付けると、刈り込み機械の長さ、幅、ともに大きくなることを十分認識しておいてください。狭い場所で急な旋回をしたりすると、アタッチメントを破損させる可能性があります。

トリミング

トリミングは、デッキの左側のみで行ってください。デッキの右側でトリミングすると、バガーのシュートや排出口を破損させる可能性があります。

刈り込み高さ

刈高を低くしすぎないように注意しましょう。マシンの周囲に深い草があると、刈り込みデッキの中に空気が十分に入らず、うまく集草できなくなります。空気の流入が不足するとバガーが詰まってしまいます。

刈り込み回数頻度

刈り込み作業はあまり日にちをあけずに特に成長期行いましょう。草が伸びすぎてしまった場合には2度に分けて刈り込みを行う必要があります。

刈り込みのテクニック

刈り上がりをきれいに見せるためには、刈幅がすこし重なるようにして刈り込んで行くのがベストです。こうするとエンジンの負担も軽くなり、シュートや排出チューブが詰まるようなトラブルも少なくなります。

集草速度

ほとんどの場合は、エンジンのスロットルを高速に設定して通常の走行速度で刈り込み集草を行って大丈夫です。しかし、非常に乾燥している日には、スロットルを少し落とし、走行速度は少し上げて作業を行うとよいでしょう。刈り込み速度が速すぎるあるいはエンジン速度が遅すぎるとバガーが詰まってしまう可能性があります。登り斜面では走行速度を落とす必要があるでしょう。これにより、エンジンが所定速度で回転を維持することができ、効率よく集草を続けられます。可能な場合は必ず上から下へ向かって刈ってください。

⚠ 注意

バガーに刈りかすがたまるにつれてマシンの後部が重くなってきます。法面で上向きに停止したあとに急発進すると、機体の前部が浮き上がってハンドルが効かなくなる危険があります。

- **法面では急停止・急発進しないでください。登り発進を避けるようにしましょう。**
- **上り坂で停止してしまった場合には、ブレードコントロールを解除してください。そしてそのまま、ゆっくりと、バックで法面を下がってください。**
- **斜面では、急旋回したり不意に速度を変えたりしないでください。**
- **バガーだけを外し、前バガーウェイトを付けたままでの運転は絶対にしてはならない。**

草丈が長い場合の集草

非常に草丈が高くなると刈かすが非常に重くなり、集草バッグまでの送り込みができなくなります。こうなるとチューブやシュートが詰まりを起こします。これを避けるためには、まず高めの刈高で一度刈り込みを行い、次に通常の刈高に戻してもう一度刈り込むのがよいのです。

草がぬれている場合の集草

芝生が乾いているときの刈り込みが一番きれいです。どうしてもぬれた芝を刈り込まなければならない場合には、刈りかすを普通に側方に排出するのがおすすめです。そして数時間たって刈りかすが乾いたら、バガーを取り付けて刈りかすを集草します。

詰まりの兆候を知る

集草しながらの刈り込みでも、デッキの前部から少しの量の刈かすが吹き出してくるのが普通です。この吹き出し量が多い場合には、集草バッグが一杯であるか、途中で詰まっている可能性があります。

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 8 時間	· ブロアベルトを点検する。 · バガーの点検を行う。
使用開始後最初の 10 時間	· バガーの点検
使用するごとまたは毎日	· フードのスクリーンを清掃する。 · バガーを清掃する。
25運転時間ごと	· ブロアベルトを点検する。
50運転時間ごと	· アイドラアームにグリスを注入する(モデル 78483-78488 のブロアのみ)
100運転時間ごと	· バガーの点検を行う。
長期保管前	· バガーの点検

⚠ 警告

始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備・調整作業の前には必ずエンジンを停止し、キーを抜いておくこと。点火コードが点火プラグに触れないように十分離しておくこと。

⚠ 警告

作動中のエンジンは高温になる。高温部に触れるとやけどを負う危険がある。

エンジン関連の機器、特にマフラーに触れる作業は、温度が下がってから行うこと。

⚠ 警告

刈りかす、木の枝などは燃える可能性がある。エンジン付近で火災が起こると人身事故や物損事故になる恐れがある。

- **エンジンやマフラーの付近にごみを貯めないように注意すること。**
- **バガーのカバーを開く時に、内部のごみをエンジンやマフラーの上に落とさないように注意すること。**
- **機械の格納はエンジンが十分に冷えてから行う。**

フードスクリーンの清掃

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

スクリーンは使用ごとに清掃してください。

1. 平らな場所に駐車する。
2. ブレードPTO制御スイッチを解除し、駐車ブレーキを掛け、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にする。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. バガーフードを開ける。
5. スクリーンについている汚れを除去する。
6. バガーフードを閉じる。

バガーアタッチメントの点検

整備間隔: 使用開始後最初の 10 時間

長期保管前

使用開始から10運転時間後、そしてその後は1か月ごとにバガーアタッチメントを点検してください。

1. シュート、排出チューブ、バガートップを点検し、これらが破れていたり破損していたりしたら交換してください。

2. 機体各部のゆるみを点検し、必要な締め付けや交換、修理を行う。
3. ボルト･ナットやラッチを点検し、無くなっていたり破損しているものは交換する。
4. 集草バッグの劣化状態を調べる。

⚠ 警告

集草バッグが破れていたり穴が開いていたりすると、そこから異物が飛び出す可能性があり、異物が人に当たると重大な人身事故に発展する恐れがある。

- **集草バッグに穴、破れ、その他の劣化がないか、よく点検すること。**
- **集草バッグを洗わないこと。**
- **古くなって劣化した集草バッグは新しいものに交換すること。**

バガーとバッグの清掃

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

バガーは使用ごとに毎日清掃してください。

1. バガーフード、バッグ、チューブおよび刈り込みデッキの内側および外側を洗浄する。洗浄には自動車用の刺激性の少ない洗剤を使用する。
2. 硬くこびりついている刈かすを十分に除去すること。
3. 洗浄が終わったら各部を十分に乾かす。

注 全部の部品を元通りに取り付けたら、マシンを1分間程度運転して機体を完全に乾燥させます。

ブロアベルトの点検

整備間隔: 使用開始後最初の 8 時間

25運転時間ごと

ベルトに割れ、縁のほつれ、焼けなどの損傷がないか点検してください。摩耗･破損したベルト交換してください。

ブロアベルトの交換

モデル 78483-78488 のブロア

1. 平らな場所に駐車する。
2. ブレードPTO制御スイッチを解除し、駐車ブレーキを掛け、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にする。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. スプリング付きのアイドラプーリを引っ張ってベルトのテンションを弱める図 58。.

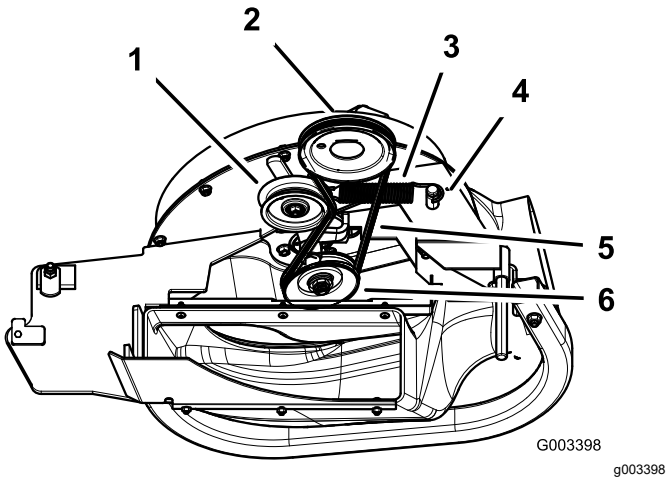


図 58

1. アイドラプーリ
2. 刈り込みデッキのプーリ
3. スプリング
4. スプリングペグ
5. ベルト
6. ブロアプーリ

5. 既存のブロアベルトを外す。
6. ブロアプーリに新しいベルトを取り付ける図 58。

7. スプリングを 図 59 のように取り付ける。

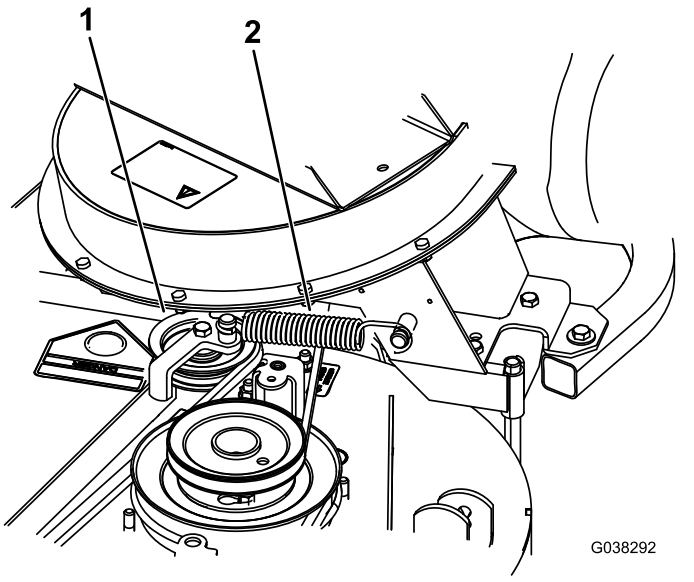


図 59

1. スプリング付きアイドラプーリ　2. スプリング

8. スプリング付きのアイドラプーリにベルトを取り付ける図 59。

モデル 78401-78486 のブロア

1. 平らな場所に駐車する。
2. ブレードPTO制御スイッチを解除し、駐車ブレーキを掛け、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にする。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. スプリング付きのアイドラプーリを引っ張ってベルトのテンションを弱める。
5. 既存のブロアベルトを外す図 60と図 61。

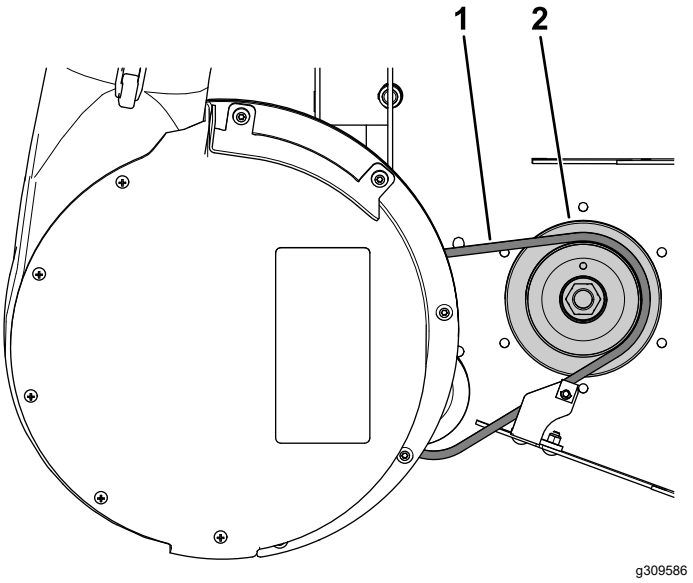


図 60

1. ブロアベルト　2. 駆動プーリ

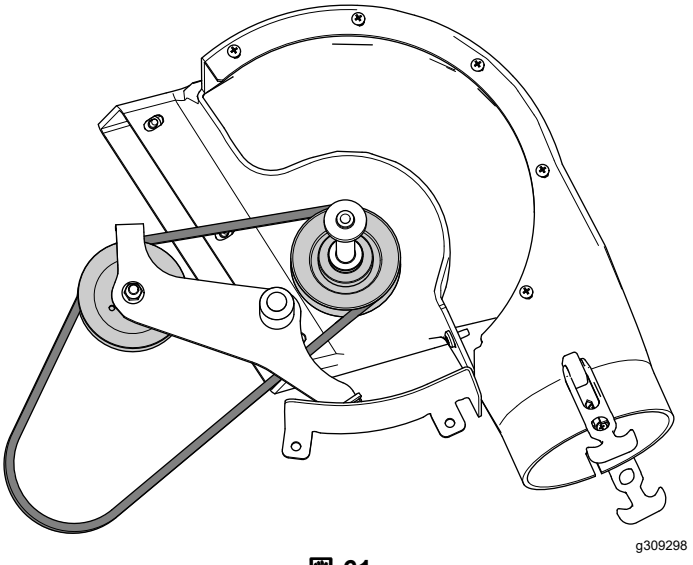


図 61

6. ブロアプーリに新しいベルトを取り付ける17 ブロアベルト、スプリング、ブロアベルトカバーを取り付ける (ページ 23)を参照。

アイドラアームにグリスを注入するモデル 78483-78488

整備間隔: 50運転時間ごと

バガーベルトのアーム図 62に50運転時間ごとにグリスを注入する。

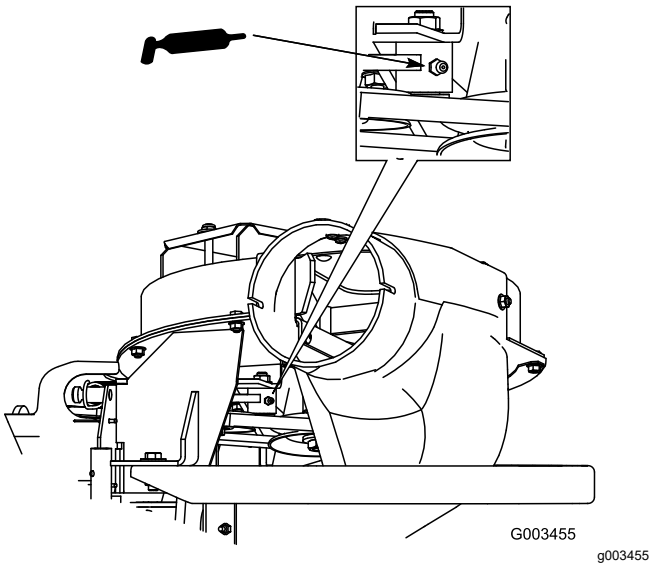


図 62

バガーの点検

整備間隔: 100運転時間ごと

使用開始後最初の 8 時間

1. 平らな場所に駐車する。
2. ブレードPTO制御スイッチを解除し、駐車ブレーキを掛け、走行コントロールレバーをニュートラルロック位置にする。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. 上チューブ、下チューブ、バガーフード、ブロアアセンブリを点検する。これらが破れていたり破損していたりしたら交換してください。
5. バッグ、バガーフレーム、スクリーンを点検する。これらが破れていたり破損していたりしたら交換してください。
6. 機体各部のゆるみを点検し、必要な締め付けや交換、修理を行う。

刈り込みブレードの点検

1. 刈り込みブレードは定期的に点検し、また、異物に当たった場合には直ちに点検する。
2. ブレードがひどく磨耗していたり破損している場合には新しいものに交換する。ブレードの保守の詳細については、マシンの*オペレーターズマニュアル* を参照。

刈り込みブレードの選択

ほとんどの場合には、標準のハイリフトブレードが集草に最も相応しいブレードです。

乾いた状態での集草には、トロのアトミックブレードをお奨めします。乾燥してほこりっぽい条件の場合には、ミディアムリフトまたはローリフトのブレードを使うとほこりの舞い上がりを抑制しながらうまく集草することができます。

どのブレードを使うのが最も適切かについては、弊社代理店にご相談ください。

ブレーの詳細については、刈り込み機械の*オペレーターズマニュアル* を参照してください。

デフレクタの交換

⚠ 警告

排出口がデフレクタなどで覆われていないと、デッキから異物が飛び出して人に当たる恐れがあり、このようなことが実際におこると深刻な人身事故になりかねない。また、ブレードに触れて大怪我をする可能性もある。

- **必ず、デフレクタ、マルチプレート、または集草装置を取り付けて運転すること。**
- **デフレクタが降りた位置になっているのを必ず確認しておくこと。**

1. スプリングの一方の端部を、デッキ後部のエッジに引っ掛け、他方の端部をデフレクタに取り付ける図 63。

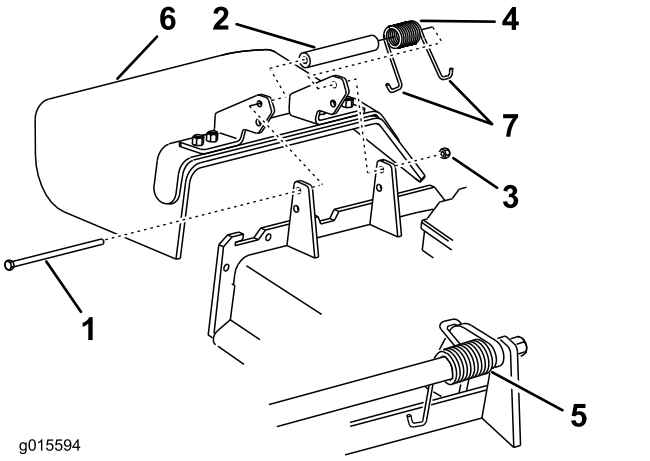


図 63

1. ボルト
2. スペーサ
3. ロックナット
4. スプリング
5. スプリングを取り付けた状態
6. デフレクタ
7. スプリングの端部

2. ボルトとナットで、デフレクタアセンブリをデッキに固定する図 63。
3. スプリングの右側の **J** 字形フックを、デフレクタに引っ掛ける図 63。

重要 **デフレクタがスプリングによって下向き位置になることが必要です。デフレクタを手で上向きにし、自力で下まで完全に下がることを確認してください。**

保管

1. バガーアタッチメントを空にする 集草バッグにたまった刈かすを捨てる (ページ 29)を参照。
2. バガーアタッチメントに破損がないか点検する。
3. バッグが空であること、また完全に乾いていることを確認する。
4. ベルトに磨耗や割れが発生していないか点検する ブロアベルトの点検 (ページ 32)を参照。
5. マシンの格納は、汚れていない乾燥した、直射日光の当たらない場所で行う。屋外で保管しなければならない場合には、防水カバーを掛ける。カバーを掛けることによりプラスチックの寿命を延ばすことができる。

故障探究

問題	考えられる原因	対策
異常に振動する。	1. ブレードが曲がっているバランスが悪い。 2. ブレード取り付けボルトがゆるい。 3. ブロアのプーリまたはプーリアセンブリがゆるい。 4. バガーベルトが摩耗している。 5. ブロアのファンブレードが曲がっているかバランスが悪い。	1. 新しいブレードを取り付ける。 2. 取り付けボルトを締め付ける。 3. プーリを締め付ける。 4. ベルトを交換する。 5. 代理店に連絡する。
集草性能が悪い。	1. エンジン速度が低い。 2. バガーフードのスクリーンが詰まりを起こしている。 3. ブロアベルトがゆるい。 4. ブロアやチューブが詰まっている。 5. バッグが一杯になっている。	1. エンジンは常に全開で使用する。 2. スクリーンを清掃して汚れを除去する。 3. バガーベルトを交換する。 4. 詰まりを除去する。 5. バッグを空にする。
ブロアやチューブが何度も詰まる。	1. エンジン速度が低い。 2. 芝草がぬれすぎている。 3. 芝草が長すぎる。 4. フードのスクリーンが詰まりを起こしている。 5. 走行速度が速すぎる。 6. バガーベルトが摩耗している。	1. エンジンは常に全開で使用する。 2. 乾いているときに刈り込む。 3. 一回の刈り込みでの刈り取り長さを、51-76 mm または草丈の ⅓ 以下どちらか小さい方に制限する。 4. スクリーンを清掃して汚れを除去する。 5. フルスロットルでゆっくり作業する。 6. ベルトを交換する。
ごみが吹き出してくる。	1. バッグが一杯になっている。 2. 走行速度が速すぎる。 3. 刈り込みデッキの水平調整が悪い。	1. まめにバッグを空にする。 2. フルスロットルでゆっくり作業する。 3. デッキの水平調整についてはオペレーターズマニュアルを参照する。
ブロアのインペラが自由に回転しない。	1. ブロアが詰まっている。 2. インペラの芯がずれている。	1. ブロアのインペラ部分を清掃して汚れを除去する。 2. 代理店に連絡する。

メモ

メモ

メモ

カリフォルニア州第65号決議による警告

この警告は何?

以下のような警告ラベルが張られた製品を見かけることがあるでしょう

警告: がん及び生殖障害—www.p65Warnings.ca.gov.

Prop 65 って何?

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常の生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへ https://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all.

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味していますある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

この法律は全世界に適用されるのですか

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

カリフォルニア州の警告と連邦政府の上限との関係は

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 マイクログラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないということは言えません。

なぜ Toro 製品にはこの警告が表示されているのですか

Toro では、十分な情報に基づいてお客様ご自身が判断できるようにすることがベストであるという考えから、できる限り多くの情報をお客様に提供することとしております。リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、Toro では、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro では、自社の製品に含まれる化学物質の量が「重大なリスクはない」レベルであると認識した上で、あえてProp 65 警告の表示を行うという選択をしております。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。